

岐阜県都市公園活性化基本戦略

平成28年10月

岐阜県

清流の国ぎふ憲章

～ 豊かな森と清き水 世界に誇れる 我が清流の国 ～

岐阜県は、古来、山紫水明の自然に恵まれ、世界に誇る伝統と文化を育んできました。豊かな森を源とする「清流」は、県内をあまねく流れ、里や街を潤しています。そして、「心の清流」として、私たちの心の奥底にも脈々と流れ、安らぎと豊かさをもたらしています。

私たちの「清流」は、飛騨の木工芸、美濃和紙、関の刃物、東濃の陶磁器など匠の技を磨き、千有余年の歴史を誇る鶺鴒などの伝統文化を育むとともに、新たな未来を創造する源になっています。

私たち岐阜県民は、「清流」の恵みに感謝し、「清流」に育まれた、自然・歴史・伝統・文化・技をふるさとの宝ものとして、活かし、伝えてまいります。

そして、人と人、自然と人との絆を深め、世代を超えた循環の中で、岐阜県の底力になり、100年、200年先の未来を築いていくため、ここに「清流の国ぎふ憲章」を定めます。

「清流の国ぎふ」に生きる私たちは、

知

清流がもたらした

自然、歴史、伝統、文化、技を知り学びます

創

ふるさとの宝ものを磨き活かし、

新たな創造と発信に努めます

伝

清流の恵みを新たな世代へと守り伝えます

目 次

I	はじめに	
1.	戦略策定の背景と趣旨	1
2.	戦略の対象期間	1
3.	戦略策定の経過	1
II	県営都市公園を取り巻く環境	
1.	本県の人口推移	2
2.	本県の観光客の状況	2
3.	広域交通ネットワークの進展	3
4.	公園を取り巻く地域資源	3
III	県営都市公園が目指すべき方向	4
IV	戦略のテーマ	5
V	戦略の取組方針と展開	
1.	6つの取組方針	6
2.	3つのステップによる展開	7
3.	各公園ごとの基本コンセプト	7
VI	各公園の具体的な取組み	
1.	各公園ごとの取組み	
	花フェスタ記念公園	9
	養老公園	13
	世界淡水魚園	16
	平成記念公園	19
2.	「清流の国ぎふ回廊づくり」に向けた取組み	22
3.	イメージマップ	24

<参考資料>

1. 各公園ごとの現状等	
花フェスタ記念公園28
養老公園32
世界淡水魚園35
平成記念公園39
2. 各公園の基本コンセプトと現状等との主な関係42
3. 公園とまちづくり ～アメリカ・ポートランドの事例～46
4. 岐阜県都市公園活性化懇談会47

I はじめに

1. 戦略策定の背景と趣旨

本県には、花フェスタ記念公園（可児市）、養老公園（養老町）、世界淡水魚園（各務原市）、平成記念公園（美濃加茂市）の4つの集客力のある県営都市公園があります。過去に相当なコストとエネルギーを投入して整備されたこれら4公園には、県内観光入込客数の約1割に当たる年間650万人を超える人々が訪れており、高いポテンシャルを有しています。

昨年春には、花フェスタ記念公園を舞台に「花フェスタ2015ぎふ」を開催し、当初目標の25万人を大幅に上回る約41万人の集客を達成しました。「花」と「食」をテーマに、いまここでしか体験できないような企画を充実させた成果であり、あらためて当公園が持つポテンシャルの高さが証明されたところです。

その一方で、近年における来園者数の動向をみると、県内観光入込客数が着実に増加しているのとは対照的に、世界淡水魚園を除く3公園では伸び悩み傾向となっています。公園へのニーズや取り巻く環境が変化している中であって、これらの公園が有するポテンシャルが存分に発揮されているとは言い難い状況にもあります。

現在、本県では「世界遺産」をはじめ多様な地域資源に磨きをかけ、発信し、人を呼び込んでいく取組みを展開しています。県営都市公園についても、こうした取組みと軌を一にし、そのポテンシャルを最大限に発揮するとともに、多様な地域資源をつなぐ拠点として「清流の国ぎふ」に相応しいブランドの確立に貢献していくことが求められています。

以上のような背景のもと、県営都市公園の活性化に向け、公園が担うべきテーマ、指針とすべき取組方針と展開を明らかにするとともに、ハード・ソフトの両面にわたる具体的な取組内容について、基本戦略を策定するものです。

(注) 本県の県営都市公園は7公園ありますが、本戦略では、このうち年間30万人以上の集客力を有し、かつ県外からの来園者が過半を占めている上記の4公園を対象とします。

2. 戦略の対象期間

本戦略の対象期間は、東海環状自動車道西回り区間の整備及び東京オリンピック・パラリンピック開催などの大きな転換期を見据え、平成28（2016）年度から平成32（2020）年度までの5年間とします。

3. 戦略策定の経過

本戦略の策定にあたっては、学識経験者、花き振興、子育て支援、観光振興、報道、産業、公園所在首長、行政など幅広い分野の有識者からなる「岐阜県都市公園活性化懇談会」において5回にわたりご議論いただいたほか、各公園の運営協働会議等においても関係者のご意見を伺い、こうした意見を反映させつつ、とりまとめました。

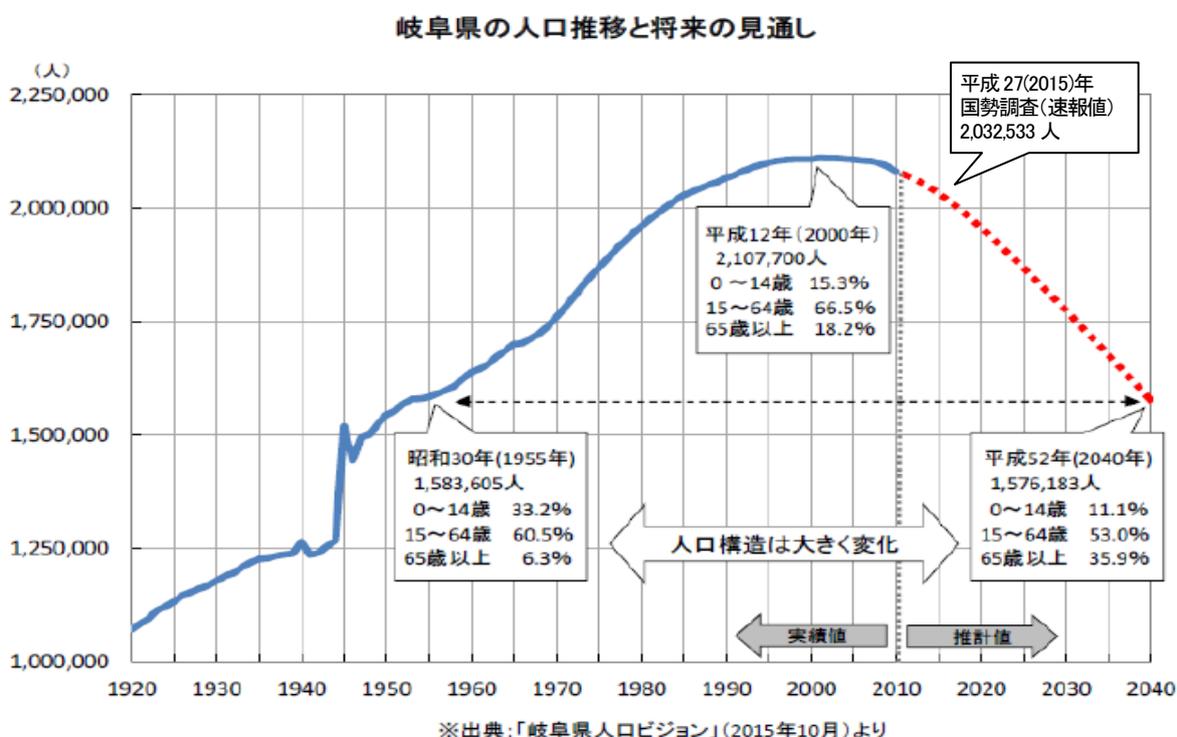
II 県営都市公園を取り巻く環境

1. 本県の人口推移

本県人口は、平成12（2000）年の約211万人をピークに今後も減少すると推計されています。

このような人口減少問題に立ち向かうため、昨年度、『清流の国ぎふ』創生総合戦略を策定し、これに基づき地域の将来を支える人を岐阜に留めるとともに、岐阜に呼び込むため、移住定住の促進、企業誘致や国内外からの観光誘客等の施策を展開しているところです。

なお、本県への移住者は年々増加しており、平成27年度に市町村の支援施策等を利用して移住された方は、過去5年間で最高の1,129人となっています。

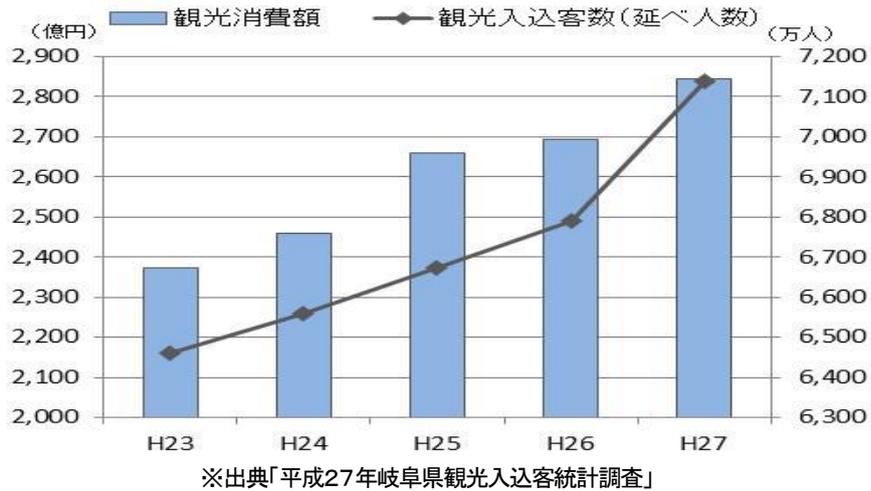


2. 本県の観光客の状況

本県への観光入込客数は近年増加しており、平成27年には7,139万5千人（延べ人数、対前年比5.1%増）となっています。宿泊客数（実人数）は628万9千人となり、前年に比べ12.8%増加しています。また、これに伴う観光消費額は、2,844億円となっています。

また、本県ではかねてより「飛騨・美濃じまん海外戦略プロジェクト」を推進しています。国においてもインバウンド戦略の一つとして、広域観光周遊ルートを推進しており、この地域においては「昇龍道プロジェクト」と銘打って取り組まれているところです。その結果、平成27年の外国人延べ宿泊者数は前年に比べ55.7%の高い伸びを示し、93万人を記録しました。

観光入込客数（延べ人数）・観光消費額の推移

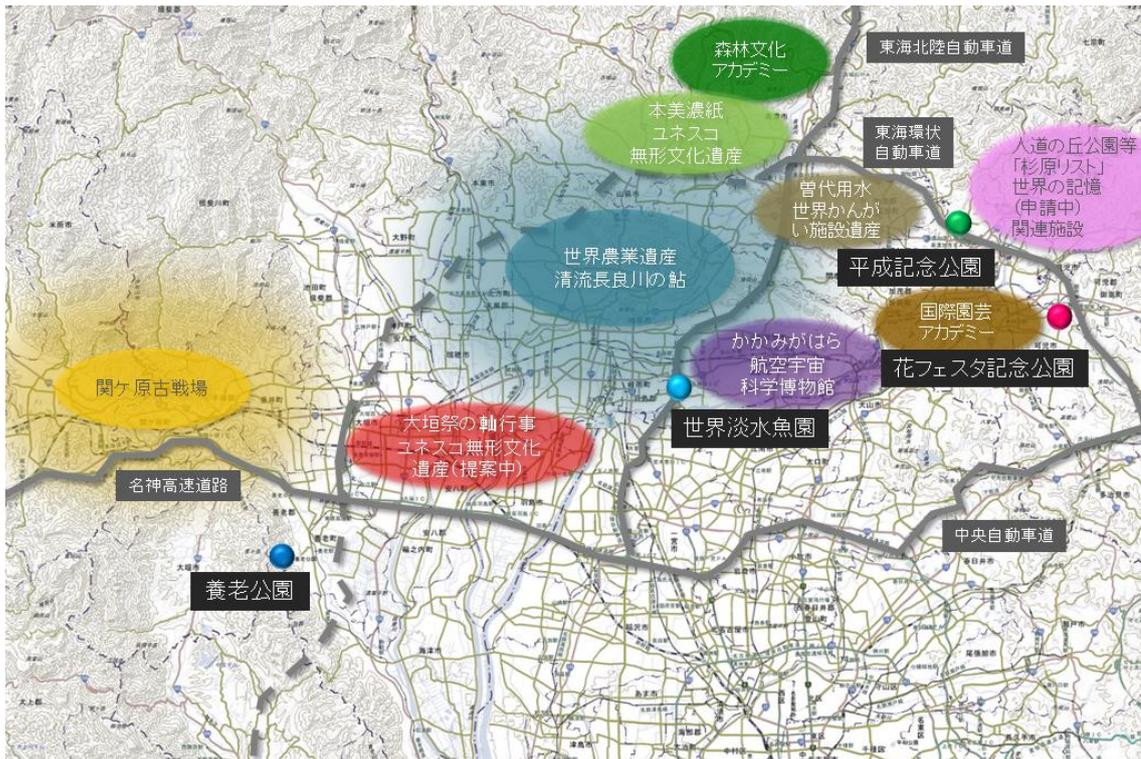


3. 広域交通ネットワークの進展

本県は、わが国の東西軸と南北軸の結節点に位置し、今後さらに東海環状自動車道西回り区間、リニア中央新幹線（2027年東京・名古屋間開業予定）の整備により、ヒト、モノ、カネ、情報が行き交う「スーパー・メガリージョン」（三大都市圏の一体化）が形成されるなど、広域交通ネットワークが飛躍的に進展していくことが期待されます。

4. 公園を取り巻く地域資源

本県の県営都市公園は各流域のいわば要の位置に立地し、公園の周辺には清流長良川の鮎、本美濃紙などの「世界遺産」をはじめ、関ヶ原古戦場、かかみがはら航空宇宙科学博物館などの本県が誇る数多くの地域資源があります。そして、これらのさらなる魅力向上を図るため、「清流の国ぎふ」ブランドづくりが展開されているところです。



「電子国土webデータ」（国土地理院）（<http://maps.gsi.go.jp/#9/35.779943/137.040710/>） 画像もとに岐阜県作成

Ⅲ 県営都市公園が目指すべき方向

県営都市公園を取り巻く環境などを踏まえ、「岐阜県都市公園活性化懇談会」において目指すべき方向について、以下のようなご意見をいただきました。

- ・交通条件、人口減、高齢社会といった国土像の転換というもののなかで、岐阜がどういう方向を示すのかを視野におきながら、公園が果たすべき機能を検討することが必要。
- ・県だけでなく、地元の市町と合わせて、民間が一体になって公園のストック資産を活用しながら、岐阜県が目指す将来像に貢献する公園とすべき。
- ・都市公園は、観光、イベント、商業など様々な分野で何でもできるが、何でもやるのではなく、良いところを伸ばす方向で取組むことが必要。
- ・地域の人に愛されている、利用されているといったことは重要。
- ・市民、ボランティアに支えられる運営も公園を支えるものとして必要。
- ・民間も参加しやすい仕組みを作ることが必要。イベントではなく、継続的に何かできるということで商売が成り立ち、民間も参加できる。
- ・子どもたちの教育、親子で学べる場としての活用が必要。春夏秋冬、子どもたちが学べる場として公園を利用すべき。
- ・公園と、本美濃紙、清流長良川の鮎などの地域の宝を結びつけるべき。
- ・個々の公園が競合するような関係ではなく、機能補完をしながら、公園の戦略的回廊を形成していくことが重要。
- ・公園だけではなく、歴史や文化など世界的に発信できるような資産とどう連携していくのか、そのためにはどういう機能を活かしていくか、という順番で発想していくことが必要。
- ・流域の要に4つの公園がある。清流長良川はそのシンボル。木曾川であっても揖斐川であってもいい。清流とその要にある公園というものを、内外にアピールしていく。
- ・すべてについての戦略性と情報発信が不足しており、情報発信の仕組みを考えながら、相互の公園の魅力を醸成して、地域資源の発掘の大きな機会としながら地域振興に資する県営公園としていくことが必要。
- ・全国的に公園が量的に拡大し、均一に整備・管理しようとする、相当の予算を要することになってしまうため、公園管理者はマネジメントではなく、メンテナンスに重点を置いてしまう。その結果、公園の魅力が薄れてしまい、利用者が減るといった負のスパイラルが起こっている。
- ・最近の観光の議論の中でよく出てくる戦略的な見せ場「ビューポイント」を、必ずしも目で見ることだけでなく心に感じることも含めて、そこを代表できるような、人々の気持ちをつかむようなものをどのように考えていくかという戦略が重要。
- ・各公園は、当時単体の目的あるいは作ることが目的とされた公園であり、それが今矛盾をきたして、必ずしも地域と連携しているわけではない。未来の岐阜に貢献できる公園づくりが必要。

IV 戦略のテーマ

今後の県営都市公園は、「Ⅲ 県営都市公園が目指すべき方向」に示されたとおり、県民や地域の方々に一層活用していただくとともに、県内外さらには海外から人を呼び込むことなどが求められています。そのためには、「世界遺産」をはじめ本県が誇る多様な地域資源が有機的に結ばれた広域的なネットワークを「清流の国ぎふ回廊」として捉え、公園がその拠点たる機能を果たしていくことが重要となります。

そこで、本戦略においては、以下の3つのテーマを設定し、各公園のポテンシャルを最大限に発揮していくと同時に、拠点としての役割を強化するための施策を展開していくこととします。

1. 観光振興の拠点として、岐阜県の交流人口拡大に貢献する公園

各公園の「地の利」を活かして、県内外さらには海外から観光客を呼び込み、観光振興の一翼を担います。

「清流の国ぎふ回廊」の実現に貢献する公園

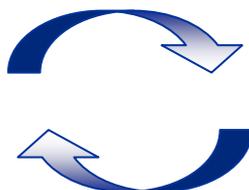
2. 経済活動の活性化、県民活動の充実に貢献する公園

各公園やその立地している地域の強みを伸ばし、産業振興、子育て、教育・文化、健康・スポーツなど経済・県民活動の活性化に貢献します。

3. 岐阜県のブランド力向上に貢献する公園

「世界遺産」をはじめ地域資源と連携することにより、「清流の国ぎふ」に相応しいブランドの確立に貢献します。

グローバルズム
インバウンド



ローカリズム
アイデンティティ

V 戦略の取組方針と展開

3つの戦略テーマを実現していくため、以下の6つの取組方針に沿って今後の公園づくりを行うこととします。

これにより、各公園の魅力向上及び地域資源との連携を図り、さらに「清流の国ぎふ回廊」としてのブランド形成を目指します。

1. 6つの取組方針

① 地域に愛される公園づくり

- ・ 地元住民が来園しやすい公園づくり
- ・ 子どもから高齢者まで幅広く利用される公園づくり
- ・ 人々が集う地元イベントの誘致

② 四季折々の魅力を持つ公園づくり

- ・ 人々を魅了する景観創出
- ・ 季節を感じる植栽の展開
- ・ 季節に応じた企画の展開
- ・ 閑散期を底上げした通年型の公園づくり
- ・ 天候に関係なく楽しめるイベント

③ 地域の振興に資する公園づくり

- ・ 観光拠点としての事業展開
- ・ コンベンションやイベントの誘致・開催
- ・ 公園オリジナル商品の開発や飲食物販等の充実
- ・ 産業振興としての利活用

④ 地域資源をつなぐ公園づくり

- ・ 世界遺産等の地域ブランドとの連携
- ・ 流域の魅力発信
- ・ 流域の地域資源を体験できるプログラムの提供

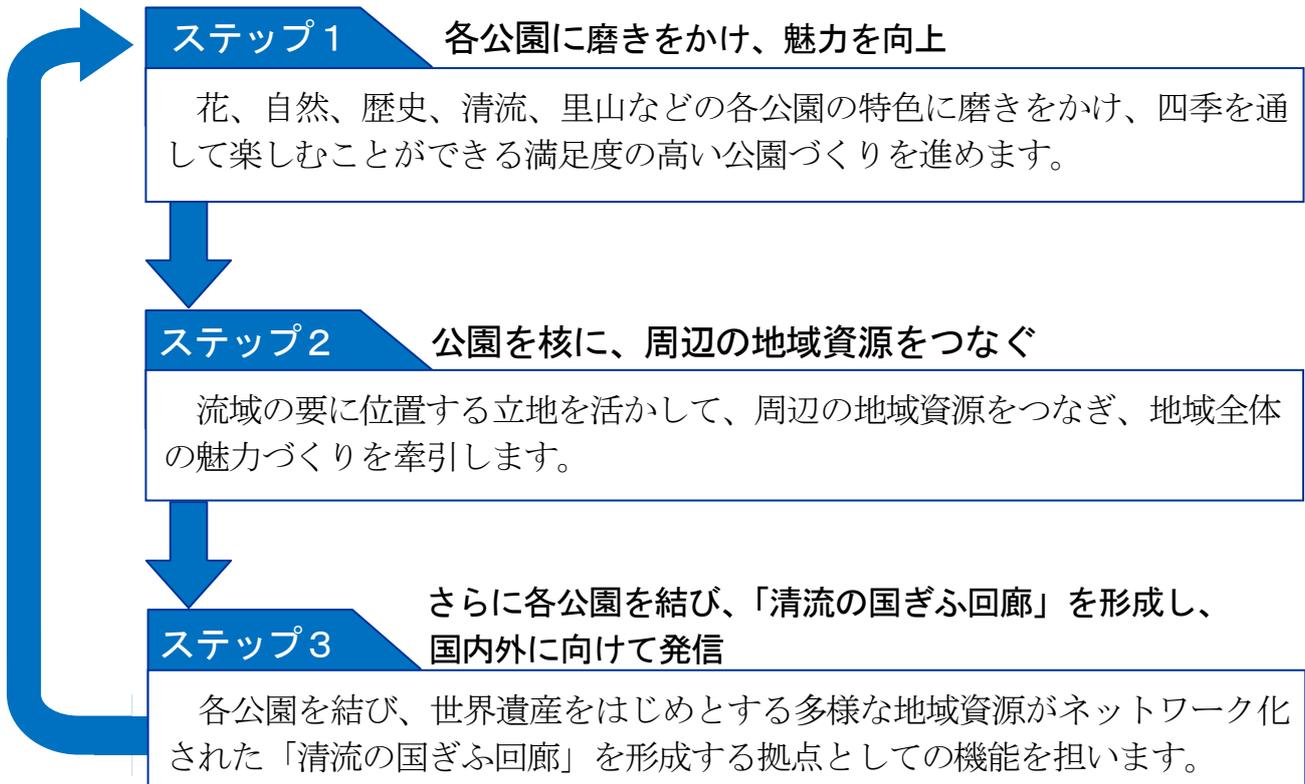
⑤ 人を育む公園づくり

- ・ 各公園の特徴を活かした人づくり

⑥ 多様な主体が参画する公園づくり

- ・ 地域住民との協働
- ・ 企業との協働
- ・ NPO、ボランティアとの協働

2. 3つのステップによる展開



3. 各公園ごとの基本コンセプト

3つの戦略テーマ、6つの取組方針及び3つのステップに基づき、「4公園共通の基本コンセプト」を以下のとおり設定しました。

4公園共通の 基本コンセプト

本県の自然、歴史、伝統、文化、匠の技などを、公園を拠点として、「清流の国ぎふ憲章」の「知」・「創」・「伝」に展開し、「清流の国ぎふ回廊」の実現に向けて、各々の公園をみんなで育てます。

さらに、「岐阜県都市公園活性化懇談会」においては、県営都市公園の魅力を最大限に発揮させていくためには、「良いところを伸ばすことが必要である」「個々の公園が競合するような関係ではなく、公園相互で機能補完すべき」等のご意見をいただいたところです。

そこで、各公園の現状、強み・弱みなどを踏まえつつ、公園相互で補完するため、「各公園の基本コンセプト」を以下のとおり設定しました。

各公園の基本コンセプト

花フェスタ記念公園	「世界に誇るバラ園を中心に花による感動をつたえる」
<ul style="list-style-type: none"> ・目を奪われるようなバラによる修景 ・国際園芸アカデミーとの連携による人材育成 ・花き振興の拠点として花のある暮らしを提案するなど花の魅力発信 ・公園の魅力を端的に表す公園名称への変更による国内外への発信 	
【重点的な展開】 日本全国、世界をターゲットとした展開	
養老公園	「健康長寿の願いと命への感謝が込められた自然と歴史をたどる」
<ul style="list-style-type: none"> ・清流の原点としての「養老の滝」へのアクセス向上 ・老若男女を問わない健康づくりの推進と子どもの健やかな成長を促す環境の充実 ・関ヶ原古戦場等の歴史遺産との連携による集客 ・情報科学芸術大学院大学（I AMAS）、岐阜県美術館との連携や養老天命反転地に触発されたアートの展開 	
【重点的な展開】 シニア世代、新たにアーティストや世界をターゲットとした展開	
世界淡水魚園	「川が育む豊かな自然と文化にふれ、生き物に親しむ」
<ul style="list-style-type: none"> ・国営木曾三川公園や各研究機関と一体的に遊びと学びをつなぐ ・里川の魅力と価値を発信し、川がもたらす恵みを後世に伝承 ・「清流の国ぎふ」の南のゲートウェイとして情報発信 	
【重点的な展開】 東アジアなどとの国際交流や国際貢献	
平成記念公園	「人と自然が共生する里山の暮らしと文化に親しむ」
<ul style="list-style-type: none"> ・里山環境を活かした外遊びプログラムの充実 ・里山文化が育んできた「匠の技」の体験 ・森林文化アカデミーとの連携による実践的な環境教育の展開 ・公園の魅力を端的に表す公園名称への変更と利用しやすい料金体系の検討 	
【重点的な展開】 利用者のニーズに応じた施設配置や管理運営方法などの全面的な見直し	

VI 各公園の具体的な取組み

1. 各公園ごとの取組み

各公園の活性化に向けて、基本コンセプトや6つの取組方針と3つのステップによる展開を踏まえ、各公園ごとの具体的な取組みについて、次のとおりとりまとめました。

<花フェスタ記念公園>

	H28	H29	H30	H31	H32
① 地域に愛される公園づくり					
地元住民が来園しやすい公園づくり					
・遠足の誘致や「花育」をはじめとする教育プログラムの開発による学校団体利用の促進	→				
・市民花壇の設置	→				
・利用しやすい開園時間の設定	→				
・利用者サービス、ホスピタリティの向上	→				
子どもから高齢者まで幅広く利用される公園づくり					
・遊具の拡充や「森のようちえん」等のイベントによる子どもの遊び環境の充実	→				
・「授乳室」や「多目的トイレ」の増設等による子育て支援強化	→				
・車いす利用者が鑑賞・手入れしやすい花壇整備、園芸療法の場の提供等、ユニバーサルデザインの促進	→				
・散策等の健康増進に資する緑地空間の提供	→				
・わかりやすいサインの整備	→				
人々が集う地元イベントの誘致					
・夏まつりや市民マラソン等、周辺自治体や地元自治会等との連携イベントの拡充	→				
② 四季折々の魅力を持つ公園づくり					
人々を魅了する景観創出					
・質の高い花壇等の景観創出	→				
・バラ科の植物を中心とした多様な修景の展開	→				
・記念撮影に適したポイントの整備	→				
・「バラのベルベデーレ」(展望デッキ)からの景観を意識したバラ園の魅力創出	→				
・スローモビリティによるバラ鑑賞	→				
・眺望を意識した空間づくり	→				
・「花のミュージアム」における屋上緑化の展開	→				

	H28	H29	H30	H31	H32
季節を感じる植栽の展開					
・四季を通した花の植栽や演出	→				
・花のある暮らしの提案による花の魅力発信	→				
季節に応じた企画の展開					
・ナイトローズ、モーニングローズ等の開園時間拡大によるバラ園の新たな魅力創出	→				
・イルミネーションによる冬季集客強化				→	
閑散期を底上げた通年型の公園づくり					
・歳時記に応じたきめ細かなイベントの実施	→				
・持続的な公園経営のための収益向上策と底上げ対策の実施	→				
天候に関係なく楽しめるイベント					
・雨天時でも楽しめる室内イベントの充実	→				
・雨・雪を活用したイベントの開催			→		
③ 地域の振興に資する公園づくり					
観光拠点としての事業展開					
・「春のバラまつり」「秋のバラまつり」の充実	→				
・バラ科の植物を中心とした多様な修景の展開【再掲】	→				
・記念撮影に適したポイントの整備【再掲】	→				
・入場ゲートの花修景によるウェルカム感の演出	→				
・多言語マップ、多言語ガイド機能の充実		→			
・ソーシャルネットワーク等の活用による公園の魅力発信とイベント情報の提供	→				
・地域資源をつなぐ周遊モデルコースの構築	→				
・利用者サービス、ホスピタリティの向上【再掲】	→				
・公園の魅力を端的に表す公園名称への変更		→			
・Wi-Fi スポットの整備による来園者の利便向上	→				
コンベンションやイベントの誘致・開催					
・イベント誘致に向けた「プリンセスホール雅」の機能向上	→				
・花き産業の商取引・見本市の場となる「ぎふフラワーフェスティバル」等の開催	→				
・花き園芸や造園等の団体と連携した全国的な会議の誘致		→			
公園オリジナル商品の開発や飲食物販等の充実					
・岐阜の魅力をPRできる飲食物販の強化	→				
・バラ関連商品の開発	→				
・キッチンカーグランプリの拡充等、飲食の提供メニューの充実と魅力向上	→				
・東ゲート付近における朝市の開催		→			

		H28	H29	H30	H31	H32
産業振興としての利活用						
・アメリカ・ポートランドを参考に、企業誘致等の戦略として公園を活用						→
・花き産業の商取引・見本市の場としての活用		→	→	→	→	→
・県産品の「ショー・ウィンドー」として、特産品のPR促進の場の提供		→	→	→	→	→
④ 地域資源をつなぐ公園づくり						
世界遺産等の地域ブランドとの連携						
・人道の丘公園等、「杉原リスト」（世界の記憶申請中）関連施設と花フェスタ記念公園の相互PR		→	→	→	→	→
・地域資源をつなぐ周遊モデルコースの構築【再掲】		→	→	→	→	→
・茶室を活用した陶芸文化や花き文化との連携		→	→	→	→	→
流域の魅力発信						
・園内の「アンネのバラ園」と人道の丘公園の連携による「平和」のメッセージの発信イベントの開催						→
・木曽川・飛騨川流域の周辺自治体のPRブース等の設置による流域の魅力発信		→	→	→	→	→
・ソーシャルネットワーク等の活用による公園の魅力発信とイベント情報の提供【再掲】		→	→	→	→	→
・プロジェクション・マッピングによる流域の魅力のPR						→
流域の地域資源を体験できるプログラムの提供						
・「みたけ華ずし体験」等の体験プログラムの提供		→	→	→	→	→
・環境教育プログラムの開発・提供		→	→	→	→	→
⑤ 人を育む公園づくり						
各公園の特徴を活かした人づくり						
・花き振興の拠点としての「花育」の推進・展開		→	→	→	→	→
・国際園芸アカデミーの一部機能の園内での展開		→	→	→	→	→
・農業高校等の教育機関との連携		→	→	→	→	→
・環境教育プログラムの開発・提供【再掲】		→	→	→	→	→
・バラ園の質・量ともに持続的な管理運営ができる人材の育成		→	→	→	→	→
・公園サポーターの充実		→	→	→	→	→
・バラの育成管理・装飾体験プログラムの開発						→
・園芸相談に対応できるプログラムの提供						→
⑥ 多様な主体が参画する公園づくり						
地域住民との協働						
・遠足の誘致や「花育」をはじめとする教育プログラムの開発による学校団体利用の促進【再掲】		→	→	→	→	→

VI 各公園の具体的な取組み <花フェスタ記念公園>

	H28	H29	H30	H31	H32
・市民花壇の設置【再掲】			→		
・夏まつりや市民マラソン等、周辺自治体や地元自治会等との連携イベントの拡充【再掲】	→				
・遊具の拡充や「森のようちえん」等のイベントによる子ども遊び環境の充実【再掲】	→				
企業との協働					
・花フェスタ記念公園パートナーシップ企業等による企業花壇の展示、職場研修、福利厚生事業等の公園利活用		→			
・民間資本の導入の検討		→			
NPO、ボランティアとの協働					
・NPO、ボランティア活動の支援と活動の場の提供	→				
・公園サポーターの充実【再掲】	→				

<養老公園>

	H28	H29	H30	H31	H32
① 地域に愛される公園づくり					
地元住民が来園しやすい公園づくり					
・遠足の誘致や「歴育」をはじめとする教育プログラムの開発による学校団体利用の促進					→
・獣害防止対策等による安心できる公園づくり					→
・利用者サービス、ホスピタリティの向上					→
子どもから高齢者まで幅広く利用される公園づくり					
・遊具の拡充や「こどもの国」におけるイベントによる子どもの遊び環境の充実					→
・「授乳室」や「多目的トイレ」の増設等による子育て支援強化					→
・散策、ヨガ等の健康増進に資する緑地空間や運動施設の提供					→
・滝谷沿い園路の休憩施設の改善					→
・「養老の滝」と「こどもの国」との回遊性向上					→
人々が集う地元イベントの誘致					
・「養老改元 1300 年祭」(平成 29 年) 会場としての活用					→
② 四季折々の魅力を持つ公園づくり					
人々を魅了する景観創出					
・歴史、風情、芸術を感じられる景観の創出					→
・眺望を意識した空間づくり					→
・「養老の滝」、「滝谷沿い」、「養老天命反転地」を中心とした記念撮影に適したポイントの整備					→
・「花と緑のまつり」「納涼滝まつり」「紅葉まつり」の充実					→
季節を感じる植栽の展開					
・四季を通した花木の植栽や演出					→
季節に応じた企画の展開					
・納涼感をテーマとする企画の実施					→
・冬のイルミネーションや、春のサクラ・秋の紅葉のライトアップによる集客強化					→
閑散期を底上げた通年型の公園づくり					
・歳時記に応じたきめ細かなイベントの実施					→
・冬のイルミネーションや、春のサクラ・秋の紅葉のライトアップによる集客強化【再掲】					→
天候に関係なく楽しめるイベント					
・雨天時でも楽しめる室内イベントの開催					→

	H28	H29	H30	H31	H32
③ 地域の振興に資する公園づくり					
観光拠点としての事業展開					
・関ヶ原古戦場と連携した歴史遺産関係イベントの展開や情報発信					→
・養老鉄道を活用した周遊モデルコースの構築					→
・「養老の滝」を描いた「葛飾北斎」をキーワードとした周遊観光のPRと情報発信					→
・「養老の滝」、「滝谷沿い」、「養老天命反転地」を中心とした記念撮影に適したポイントの整備【再掲】			→		
・多言語マップ、多言語ガイド機能の充実					→
・ソーシャルネットワーク等の活用による公園の魅力発信とイベント情報の提供					→
・「花と緑のまつり」「納涼滝まつり」「紅葉まつり」の充実【再掲】					→
・利用者サービス、ホスピタリティの向上【再掲】					→
コンベンションやイベントの誘致・開催					
・「養老改元 1300 年祭」（平成 29 年）会場としての活用【再掲】	→				
・平成 32 年の開園 140 周年に向けたPRの強化					→
・養老鉄道と連携したサイクルイベントの拠点としての活用					→
公園オリジナル商品の開発や飲食物販等の充実					
・岐阜の魅力をもPRできる飲食物販の強化					→
・「ご当地グルメフェスタ」の拡充等、飲食の提供メニューの充実と魅力向上					→
産業振興としての利活用					
・アートとの融合により西濃地域の地場産品をイノベーションさせる場としての活用					→
④ 地域資源をつなぐ公園づくり					
世界遺産等の地域ブランドとの連携					
・関ヶ原古戦場と連携した歴史遺産関係イベントの展開や情報発信【再掲】					→
・大垣祭の軸行事（ユネスコ無形文化遺産提案中）、高田祭等の曳軸等地元の祭の情報発信					→
・養老鉄道を活用した周遊モデルコースの構築【再掲】					→
流域の魅力発信					
・西濃地域の特産品や地場産品をPRする場としての活用					→
・アートとの融合により西濃地域の地場産品をイノベーションさせる場としての活用【再掲】					→

		H28	H29	H30	H31	H32
流域の地域資源を体験できるプログラムの提供						
・ 関ヶ原古戦場等の地域の歴史遺産を体験学習できるプログラムの提供						→
・ 体験型アート展示やトリエンナーレ等の芸術祭の開催						→
⑤ 人を育む公園づくり						
各公園の特徴を活かした人づくり						
・ 公園サポーター、公園ガイドの育成						→
・ 地域とともに公園運営に協働できる人材の育成						→
・ 情報科学芸術大学院大学（IAMAS）、岐阜県美術館と連携した実践研究活動の実施						→
⑥ 多様な主体が参画する公園づくり						
地域住民との協働						
・ 遠足の誘致や「歴育」をはじめとする教育プログラムの開発による学校団体利用の促進【再掲】						→
・ 「歴育」を担う地域住民の活動支援						→
企業との協働						
・ スポーツメーカー等の企業との連携による健康プロモーションの促進						→
・ アートとの融合により西濃地域の地場産品をイノベーションさせる場としての活用【再掲】						→
NPO、ボランティアとの協働						
・ NPO、ボランティア活動の支援と活動の場の提供						→
・ 公園サポーター、公園ガイドの育成【再掲】						→

<世界淡水魚園>

		H28	H29	H30	H31	H32
① 地域に愛される公園づくり						
地元住民が来園しやすい公園づくり						
・遠足の誘致や「川育」をはじめとする教育プログラムの開発による学校団体利用の促進						→
・利用者サービス、ホスピタリティの向上						→
子どもから高齢者まで幅広く利用される公園づくり						
・遊具の拡充による子どもの遊び環境の充実						→
・旧バーベキュー施設跡地の環境整備		→				
・わかりやすいサインの整備						→
・有効活用されていない施設を環境教育に関する拠点としてリニューアル						→
人々が集う地元イベントの誘致						
・「かわしま燦々夏まつり」等、周辺自治体や地元自治会等との連携イベントの充実						→
② 四季折々の魅力を持つ公園づくり						
人々を魅了する景観創出						
・記念撮影に適したポイントの整備						→
・「清流の国ぎふ」に相応しい親水空間としての質の高い水際景観の創出と夜間演出						→
季節を感じる植栽の展開						
・市民花壇の設置						→
季節に応じた企画の展開						
・イルミネーションによる冬季集客強化						→
閑散期を底上げした通年型の公園づくり						
・イルミネーションによる冬季集客強化【再掲】						→
天候に関係なく楽しめるイベント						
・世界淡水魚園水族館の館内を活用した雨天向けプログラムの展開						→
③ 地域の振興に資する公園づくり						
観光拠点としての事業展開						
・「清流の国ぎふ」に相応しい親水空間としての質の高い水際景観の創出と夜間演出【再掲】						→
・記念撮影に適したポイントの整備【再掲】						→
・「清流の国ぎふ」の南のゲートウェイとして情報発信						→
・多言語マップ、多言語ガイド機能の充実						→
・Wi-Fi スポットの整備による来園者の利便向上		→				
・「春・夏・秋・冬」の楽園祭の充実						→

	H28	H29	H30	H31	H32
・ソーシャルネットワーク等の活用による公園の魅力発信とイベント情報の提供					→
・長良川流域の周遊等、地域資源をつなぐ周遊モデルコースの構築					→
・世界農業遺産「清流長良川の鮎」の理解を深めるための世界淡水魚園水族館を拠点とした「エコツアー」の開催					→
・利用者サービス、ホスピタリティの向上【再掲】	→				
・流域文化や自然環境に関する解説機能の強化					→
コンベンションやイベントの誘致・開催					
・「かわしま燦々夏まつり」等、周辺自治体や地元自治会等との連携イベントの充実【再掲】					→
・生物多様性保全をテーマとした会合の誘致	→				
公園オリジナル商品の開発や飲食物販等の充実					
・岐阜の魅力をPRできる飲食物販の強化					→
産業振興としての利活用					
・最先端技術を活かした、バーチャル・リアリティやプロジェクション・マッピングによる演出等を用いた公園の発信力の強化					→
④ 地域資源をつなぐ公園づくり					
世界遺産等の地域ブランドとの連携					
・世界淡水魚園水族館における世界農業遺産「清流長良川の鮎」の発信機能の強化					→
流域の魅力発信					
・有効活用されていない施設を環境教育に関する拠点としてリニューアル【再掲】					→
・世界農業遺産「清流長良川の鮎」の理解を深めるための世界淡水魚園水族館を拠点とした「エコツアー」の開催【再掲】					→
・長良川流域の周遊等、地域資源をつなぐ周遊モデルコースの構築【再掲】					→
・最先端技術を活かした、バーチャル・リアリティやプロジェクション・マッピングによる演出等を用いた公園の発信力の強化【再掲】					→
流域の地域資源を体験できるプログラムの提供					
・国営木曾三川公園や世界淡水魚園水族館を活用した環境教育プログラムの推進					→
・最先端技術を活かした、バーチャル・リアリティやプロジェクション・マッピングによる演出等を用いた公園の発信力の強化【再掲】					→

		H28	H29	H30	H31	H32
	・「かかみがはら航空宇宙科学博物館」との連携によるイベントの開催		—————→			
⑤ 人を育む公園づくり						
各公園の特徴を活かした人づくり						
	・国営木曾三川公園や世界淡水魚園水族館を活用した環境教育プログラムの推進【再掲】		—————→			
	・「内水面漁業研修センター」との連携による世界淡水魚園水族館の学習プログラムの充実		—————→			
	・世界淡水魚園水族館における流域環境保全の普及啓発を継続的に取り組むことができる人材の育成		—————→			
⑥ 多様な主体が参画する公園づくり						
地域住民との協働						
	・遠足の誘致や「川育」をはじめとする教育プログラムの開発による学校団体利用の促進【再掲】		—————→			
	・市民花壇の設置【再掲】				—————→	
	・「かわしま燦々夏まつり」等、周辺自治体や地元自治会等との連携イベントの充実【再掲】		—————→			
	・遊具の拡充による子どもの遊び環境の充実【再掲】		—————→			
企業との協働						
	・遊戯施設、商業施設等への民間活力導入による公園の魅力向上		—————→			
NPO、ボランティアとの協働						
	・NPO、ボランティア活動の支援と活動の場の提供		—————→			

<平成記念公園>

		H28	H29	H30	H31	H32
① 地域に愛される公園づくり						
地元住民が来園しやすい公園づくり						
・遠足の誘致や「木育」をはじめとする教育プログラムの開発による学校団体利用の促進						→
・利用しやすい料金体系の検討						→
・利用者サービス、ホスピタリティの向上						→
子どもから高齢者まで幅広く利用される公園づくり						
・公園の魅力を手端的に表す公園名称への変更						→
・遊具の拡充や「森のようちえん」等のイベントによる子どもの遊び環境の充実						→
・「授乳室」や「多目的トイレ」の増設等による子育て支援強化						→
・散策等の健康増進に資する緑地空間の提供						→
・わかりやすいサインの整備						→
・利用しやすい料金体系の検討【再掲】						→
・里山の環境を活用した防災教育キャンプの推進						→
・家族で楽しめる里山体験プログラムの充実						→
人々が集う地元イベントの誘致						
・夏まつりや市民マラソン等、周辺自治体や地元自治会等との連携イベントの拡充						→
② 四季折々の魅力を持つ公園づくり						
人々を魅了する景観創出						
・記念撮影に適したポイントの整備						→
季節を感じる植栽の展開						
・季節に応じた里山を代表する花木による修景の展開						→
・林床管理による季節ごとの里山らしさを創出できる植栽管理						→
季節に応じた企画の展開						
・歳時記に応じたきめ細かなイベントの実施						→
・春の田植え、秋の収穫をはじめとする里山の体験プログラムの充実						→
閑散期を底上げた通年型の公園づくり						
・歳時記に応じたきめ細かなイベントの実施【再掲】						→
天候に関係なく楽しめるイベント						
・屋内施設における滞在型体験プログラムの充実						→

		H28	H29	H30	H31	H32
③ 地域の振興に資する公園づくり						
観光拠点としての事業展開						
・既存建築物を活用し、美濃和紙の紙すき体験等、地場産業との連携による産業観光の強化						→
・人道の丘公園、花フェスタ記念公園等と連携した周遊観光の促進						→
・季節に応じた里山を代表する花木による修景の展開【再掲】						→
・記念撮影に適したポイントの整備【再掲】						→
・多言語マップ、多言語ガイド機能の充実						→
・Wi-Fi スポットの整備による来園者の利便向上	→					
・ソーシャルネットワーク等の活用による公園の魅力発信とイベント情報の提供						→
・利用者サービス、ホスピタリティの向上【再掲】						→
・わかりやすいサインの整備【再掲】						→
・利用しやすい料金体系の検討【再掲】						→
コンベンションやイベントの誘致・開催						
・「美濃和紙あかりアート」との連携イベントの開催						→
・未供用地を活用した里山イベントの誘致	→					→
公園オリジナル商品の開発や飲食物販等の充実						
・岐阜の魅力をもPRできる飲食物販の強化						→
・飲食の提供メニューの充実と魅力向上						→
産業振興としての利活用						
・既存建築物を活用し、美濃和紙の紙すき体験等、地場産業との連携による産業観光の強化【再掲】						→
・地方移住定住希望者向けの里山体験の実施						→
④ 地域資源をつなぐ公園づくり						
世界遺産等の地域ブランドとの連携						
・既存建築物を活用し、美濃和紙の紙すき体験等、地場産業との連携による産業観光の強化【再掲】						→
・人道の丘公園、花フェスタ記念公園等と連携した周遊観光の促進【再掲】						→
流域の魅力発信						
・既存建築物を活用し、美濃和紙の紙すき体験等、地場産業との連携による産業観光の強化【再掲】						→
・ソーシャルネットワーク等の活用による公園の魅力発信とイベント情報の提供【再掲】						→

		H28	H29	H30	H31	H32
流域の地域資源を体験できるプログラムの提供						
<ul style="list-style-type: none"> 既存建築物を活用し、美濃和紙の紙すき体験等、地場産業との連携による産業観光の強化【再掲】 						→
<ul style="list-style-type: none"> 春の田植え、秋の収穫をはじめとする里山の体験プログラムの充実【再掲】 						→
⑤ 人を育む公園づくり						
各公園の特徴を活かした人づくり						
<ul style="list-style-type: none"> 里山における遊びや動物とのふれあい等の体験プログラムを企画・指導できる人材の育成 						→
<ul style="list-style-type: none"> 里山体験による「木育」の推進の場づくり 						→
<ul style="list-style-type: none"> 森林文化アカデミーの一部機能の園内での展開 						→
<ul style="list-style-type: none"> 農業高校等の教育機関との連携 						→
<ul style="list-style-type: none"> 公園サポーターの充実 						→
⑥ 多様な主体が参画する公園づくり						
地域住民との協働						
<ul style="list-style-type: none"> 遠足の誘致や「木育」をはじめとする教育プログラムの開発による学校団体利用の促進【再掲】 						→
<ul style="list-style-type: none"> 夏まつりや市民マラソン等、周辺自治体や地元自治会等との連携イベントの拡充【再掲】 						→
<ul style="list-style-type: none"> 遊具の拡充や「森のようちえん」等のイベントによる子ども遊び環境の充実【再掲】 						→
企業との協働						
<ul style="list-style-type: none"> 既存建築物を活用し、美濃和紙の紙すき体験等、地場産業との連携による産業観光の強化【再掲】 						→
NPO、ボランティアとの協働						
<ul style="list-style-type: none"> NPO、ボランティア活動の支援と活動の場の提供 						→
<ul style="list-style-type: none"> 公園サポーターの充実【再掲】 						→

2. 「清流の国ぎふ回廊づくり」に向けた取組み

次の3つのステップを戦略的に展開していくことにより、各公園の活性化と「清流の国ぎふ」ブランドの確立に向け好循環を生み出します。

【ステップ1】各公園に磨きをかけ、魅力を向上

まずは「VI 1 各公園ごとの取組み」を着実に推進します。

【ステップ2】公園を核に、周辺の地域資源をつなぐ

ステップ1により、各公園が持つ特色と個性を一層際立たせるとともに、各流域の地域資源との連携を強化することによりテーマ性、ストーリー性のある誘客プロモーション圏域を形成します。

このために、次のような取組みを進めます。【「VI 1 各公園ごとの取組み ④ 地域資源をつなぐ公園づくり」から再掲】

- 公園の特色と地域の個性に対応した「清流の国ぎふ」の魅力に触れる多様な体験プログラムの提供
- 公園内における地域の観光インフォメーション機能の充実強化
- 周辺の地域資源との相互連携

【ステップ3】さらに各公園を結び、「清流の国ぎふ回廊」を形成し、国内外に向けて発信

東海環状自動車道の全線開通をはじめとする広域交通ネットワークの進展と4公園の立地優位性を最大限に発揮し、各公園を結び、世界遺産をはじめとする多様な地域資源がネットワーク化された「清流の国ぎふ回廊」を形成する拠点としての機能を担います。

このために、「清流の国ぎふ」の魅力を感じることができるような4公園統一のブランドを確立し、国内外に積極的に発信していくため、次のような取組みを進めます。

- 4公園統一の案内サインの整備、「ミナモ」を活用したシンボルマークの制作
- 多言語ポータルサイトの構築
- 各公園周辺の地域資源の情報を含む公園共通のパンフレットの制作
- 観光誘客施策と一体となった国内外へのプロモーションの展開

また、上記の施策を効果的に推進していくとともに、4公園が一層連携してプログラムやイベントの企画調整、運営スタッフの資質向上等に取り組んでいくための推進組織として県及び関係機関からなる協議会を新たに設置します。

<「清流の国ぎふ回廊づくり」に向けた取組み>

取組内容	H28	H29	H30	H31	H32
・ 4公園統一の案内サインの整備		→			
・ 「ミナモ」を活用したシンボルマークの制作		→			
・ 多言語ポータルサイトの構築		→			
・ 各公園周辺の地域資源の情報を含む公園共通のパンフレットの制作		→			
・ 観光誘客施策と一体となった国内外へのプロモーションの展開		→			
・ 協議会の設置、運営		→			

3. イメージマップ<花フェスタ記念公園>

<凡例> 「花フェスタ2015ぎふ」を契機に整備済み
 「岐阜県都市公園活性化基本戦略」に基づく展開

イベント誘致に向けた「プリンセスホール雅」の機能向上
 「プリンセスホール雅」を中心とした設備の充実(照明、音響、装飾等)

国際園芸アカデミーの一部機能の園内での展開
 花き振興の拠点として、専門職教育と公園活動の融合を目指す

遊具の拡充や「森のようちえん」等のイベントによる子どもの遊び環境の充実

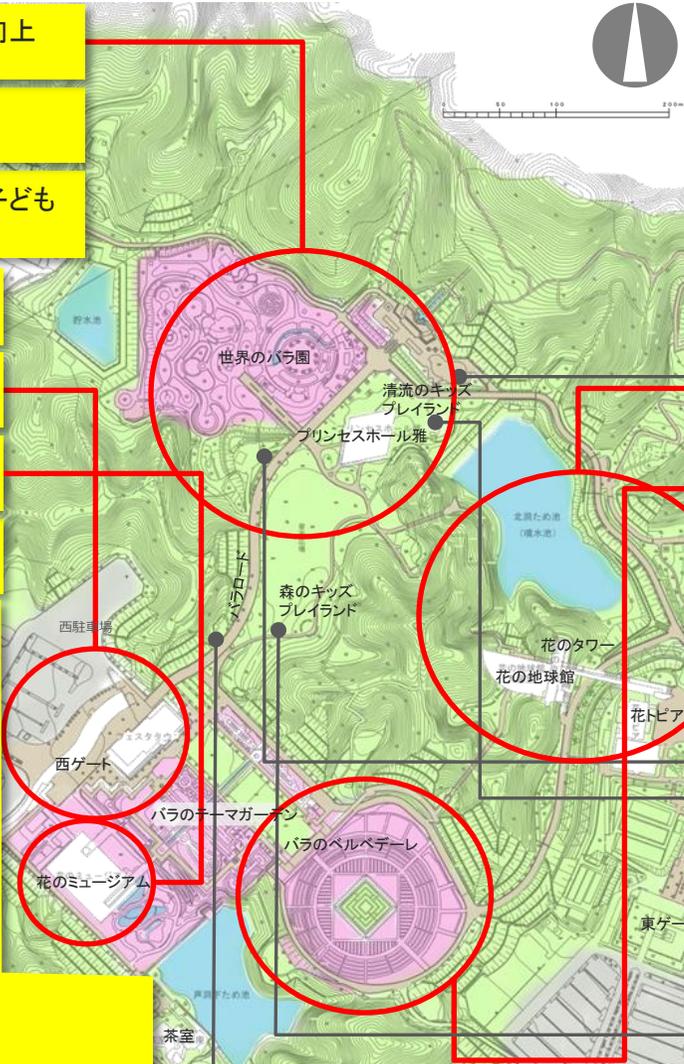
記念撮影に適したポイントの整備
 園内各所に見どころとなる撮影ポイントを整備

入場ゲートの花修景によるウェルカム感の演出
 入場ゲート(エントランス)におけるボリューム感のある花の景観整備

「花のミュージアム」における屋上緑化の展開
 新たな緑化材料・技術による緑の効果的な演出

散策等の健康増進に資する緑地空間の提供
 林床整備による森林散策の活用や、健康遊歩道の整備等

- ・ 「ぎふフラワーフェスティバル」の開催
- ・ 人道の丘公園等、「杉原リスト」(世界の記憶申請中)関連施設と花フェスタ記念公園の相互PR
- ・ 園内の「アンネのバラ園」と人道の丘公園の連携による「平和」のメッセージの発信イベントの開催
- ・ アメリカ・ポートランドを参考に、企業誘致等の戦略として公園を活用
- ・ 公園の魅力を端的に表す公園名称への変更
- ・ 木曾川・飛騨川流域の周辺自治体のPRブース等の設置による流域の魅力発信
- ・ 岐阜の魅力をPRできる飲食物販の強化
- ・ バラ関連商品の開発
- ・ 茶室を活用した陶芸文化や花き文化との連携
- ・ 東ゲート付近における朝市の開催
- ・ 多言語マップ、多言語ガイダンス機能の充実
- ・ わかりやすいサインの整備
- ・ ナイトローズ、モーニングローズ等の開園時間拡大によるバラ園の新たな魅力創出
- ・ バラ園の質・量ともに持続的な管理運営ができる人材の育成
- ・ NPO、ボランティア活動の支援と活動の場の提供
- ・ 民間資本の導入の検討



バラ科の植物を中心とした多様な修景の展開
 現在の西洋バラに加え、バラ科(サクラ、モモ、ウメ等)の花木等による多様な修景を実施



眺望を意識した空間づくり
 「花のタワー」展望台の眼下に位置する「ため池」水面を活用した花修景等

「バラのベルベデーレ」(展望デッキ)からの景観を意識したバラ園の魅力創出
 バラ園等の広がりのある景観をより効果的に演出



清流のキッズプレイランド 雲の遊び場「ふわふわドーム」



清流のキッズプレイランド 水の遊び場の整備

バラロード整備



世界のバラ園 多目的広場の整備



「プリンセスホール雅」や芝生広場との一体的な利活用

森のキッズプレイランド 遊び場整備



全国育樹祭に向けた「100年の森づくり」における高山市の伐採式で採択したスギ樹齢100年の丸太を活用

3. イメージマップ<養老公園>

「養老改元1300年祭」(平成29年)会場としての活用
「楽市楽座・養老」の改修、園路の整備等

滝谷沿い園路の休憩施設の改善
ベンチ、手すり等の更新や増設

歴史、風情、芸術を感じられる景観の創出
滝谷沿いを中心とした歴史的な景観に配慮した整備、養老天命反転地の修繕等

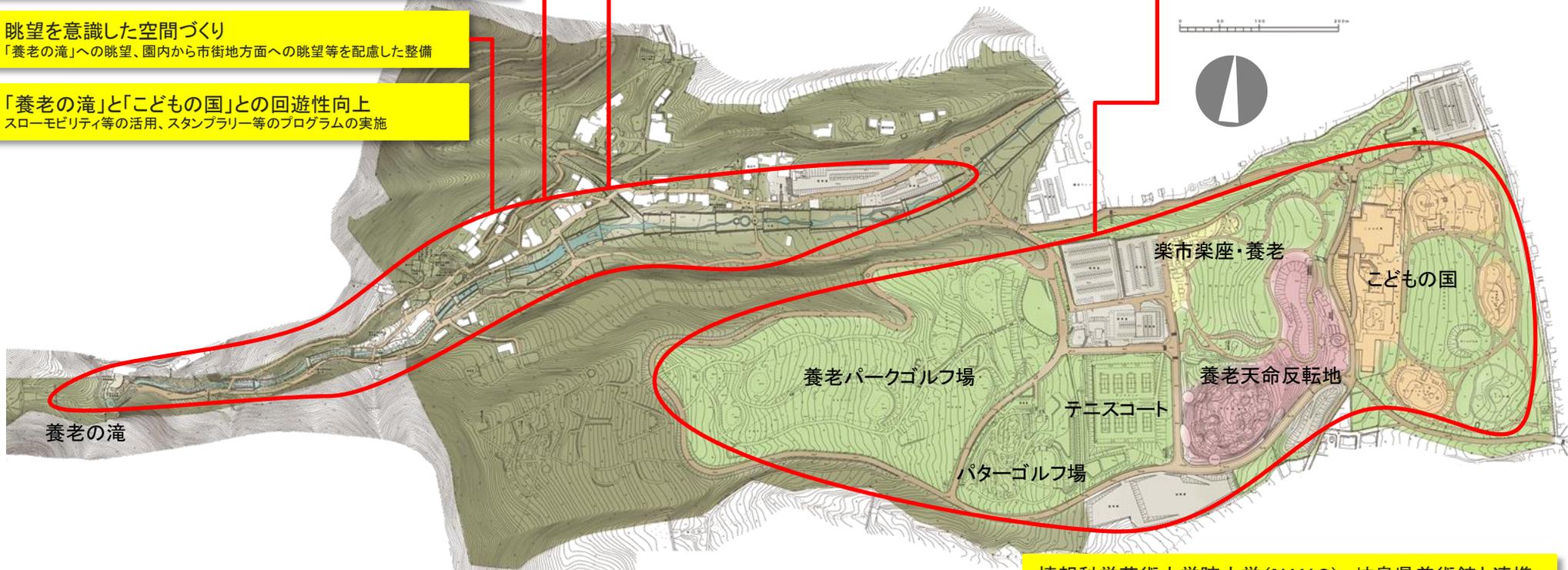
眺望を意識した空間づくり
「養老の滝」への眺望、園内から市街地方面への眺望等を配慮した整備

「養老の滝」と「こどもの国」との回遊性向上
スローモビリティ等の活用、スタンプラリー等のプログラムの実施

散策、ヨガ等の健康増進に資する緑地空間や運動施設の提供
健康遊歩道の整備や、ヨガ等のリラクゼーションに適した芝生広場の整備、テニスコート周辺整備等

「養老の滝」、「滝谷沿い」、「養老天命反転地」を中心とした記念撮影に適したポイントの整備

遊具の拡充や「こどもの国」におけるイベントによる子どもの遊び環境の充実



- 養老鉄道を活用した周遊モデルコースの構築
- 養老鉄道と連携したサイクルイベントの拠点としての活用
- 多言語マップ、多言語ガイド機能の充実
- 関ヶ原古戦場と連携した歴史遺産関係イベントの展開や情報発信
- 体験型アート展示やトリエンナーレ等の芸術祭の開催
- アートとの融合により西濃地域の地場産品をイノベーションさせる場としての活用

情報科学芸術大学院大学(IAMAS)、岐阜県美術館と連携した実践研究活動の実施



3. イメージマップ<世界淡水魚園>

「清流の国ぎふ」に相応しい親水空間としての質の高い水際景観の創出と夜間演出
 安全性を踏まえた質の高い水際景観を整備するとともに、夜間利用も考慮し、水路のライティング機能も付加

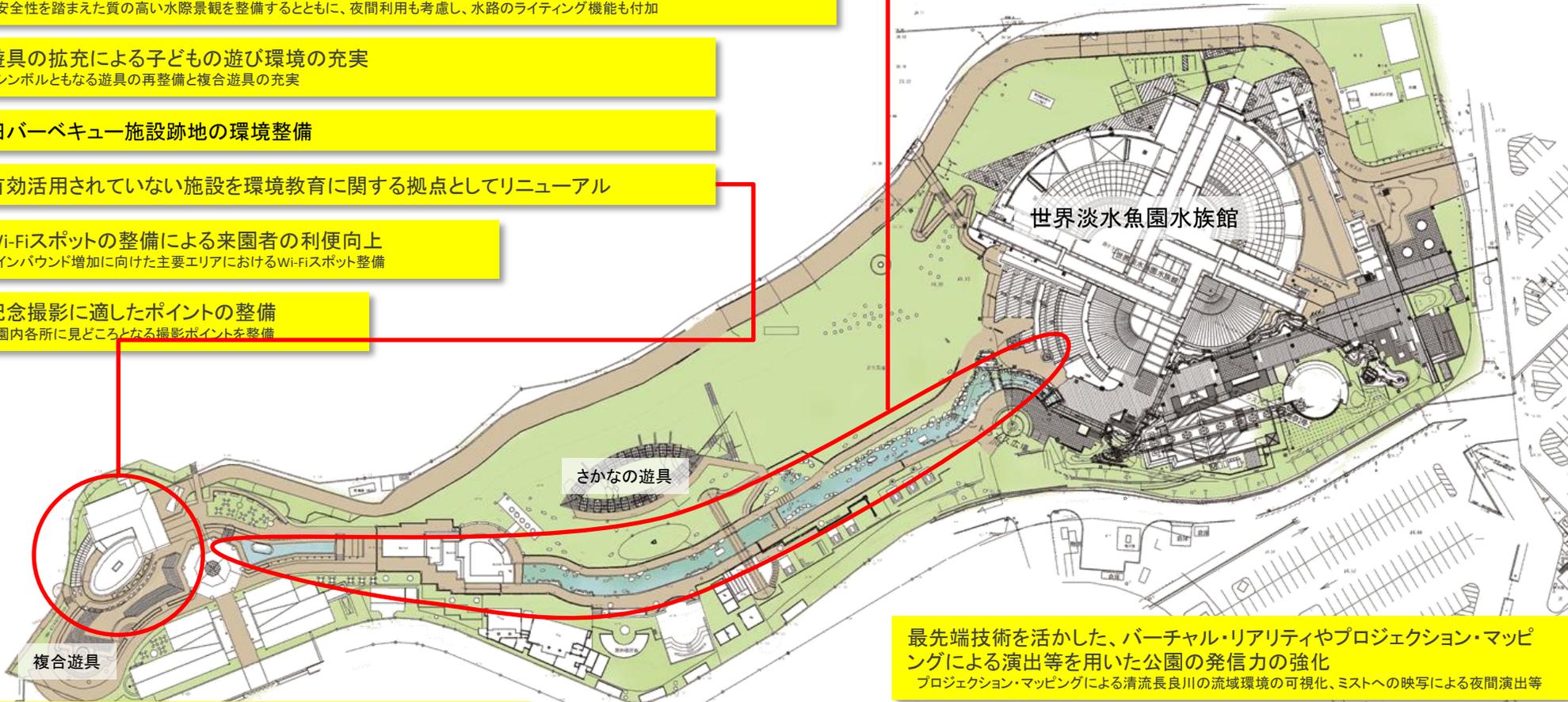
遊具の拡充による子どもの遊び環境の充実
 シンボルともなる遊具の再整備と複合遊具の充実

旧バーベキュー施設跡地の環境整備

有効活用されていない施設を環境教育に関する拠点としてリニューアル

Wi-Fiスポットの整備による来園者の利便向上
 インパウンド増加に向けた主要エリアにおけるWi-Fiスポット整備

記念撮影に適したポイントの整備
 園内各所に見どころとなる撮影ポイントを整備



最先端技術を活かした、バーチャル・リアリティやプロジェクション・マッピングによる演出等を用いた公園の発信力の強化
 プロジェクション・マッピングによる清流長良川の流域環境の可視化、ミストへの映写による夜間演出等



- ・「清流の国ぎふ」の南のゲートウェイとしての情報発信
- ・世界農業遺産「清流長良川の鮎」の理解を深めるための世界淡水魚園水族館を拠点とした「エコツアー」の開催
- ・生物多様性保全をテーマとした会合の誘致
- ・流域文化や自然環境に関する解説機能の強化
- ・「内水面漁業研修センター」との連携による世界淡水魚園水族館の学習プログラムの充実
- ・「かわしま燦々夏まつり」等、周辺自治体や地元自治会等との連携イベントの充実

3. イメージマップ<平成記念公園>

既存建築物を活用し、美濃和紙の紙すき体験等、地場産業との連携による産業観光の強化
新規に実施する体験プログラムに合わせ、既存建築物を改修し、新たな付加価値を付与

里山体験による「木育」の推進の場づくり



記念撮影に適したポイントの整備
園内各所に見どころとなる撮影ポイントを整備

Wi-Fiスポットの整備による来園者の利便向上
インバウンド増加に向けた主要エリアにおけるWi-Fiスポット整備

季節に応じた里山を代表する花木による修景の展開
サクラ、アジサイ、ヒマワリ、ヒガンバナ等をはじめとした花木の植栽



- 公園の魅力をも端的に表す公園名称への変更
- 利用しやすい料金体系の検討
- 春の田植え、秋の収穫をはじめとする里山の体験プログラムの充実
- 里山における遊びや動物とのふれあい等の体験プログラムを企画・指導できる人材の育成
- 森林文化アカデミーの一部機能の園内での展開
- 農業高校等の教育機関との連携
- 人道の丘公園、花フェスタ記念公園等と連携した周遊観光の促進

遊具の拡充や「森のようちえん」等のイベントによる子どもの遊び環境の充実

里山の自然を活用した遊び場の整備や、森や芝生広場をフィールドとした「森のようちえん」等のプログラムの展開



未供用地を活用した里山イベントの誘致



<参考資料>

1. 各公園ごとの現状等

「IV 1. 各公園ごとの取組み」を定めるため、各公園ごとの現状及び強み、弱み、機会、脅威について、次のとおりとりまとめた。

<花フェスタ記念公園>

【沿革】

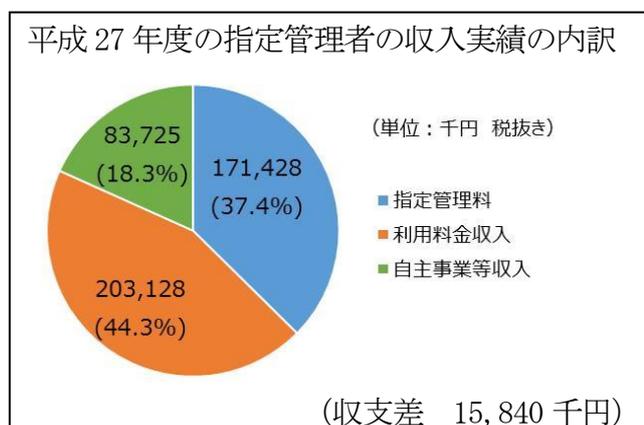
- 平成元年4月29日に「可児公園」として開園。
- 平成7年「花フェスタ'95」の会場となり、その成功を受けて再整備を行い、平成8年4月26日より「花フェスタ記念公園」として開園。
- 平成14年に英国王立バラ協会友好庭園を開設。
- 平成15年に「世界バラ会連合」から「優秀ガーデン賞」を受賞。
- 平成17年に「花フェスタ2005ぎふ」(3月1日～6月12日、104日間)を開催し、合計1,426,708人の来園者を迎えた。
- 平成27年に「花フェスタぎふ2015」(5月16日～6月21日、37日間)を開催し、合計416,226人の来園者を迎えた。
- 平成27年11月に「清流の国ぎふ花き振興計画」において、花き振興の拠点として位置づけられた。

【施設特性】

- 面積 80.7ha
- 開園時間 4月～11月上旬 9:00～17:00
11月中旬～3月末 9:30～16:00
- 駐車台数 1,700台
西側1,000台(大型27台) 東側700台(大型16台)

【指定管理者の現状】

- 平成28年度～平成34年度の7年間、指定管理者は「花フェスタ記念公園運営管理グループ」(構成員:イビデングリーンテック(株)、(株)日本ライン花木センター、グリーンワークス(株))。



【地域連携】

「花フェスタ 2015 ぎふ」では各市町村の出展等、地域のPRの場として活用。

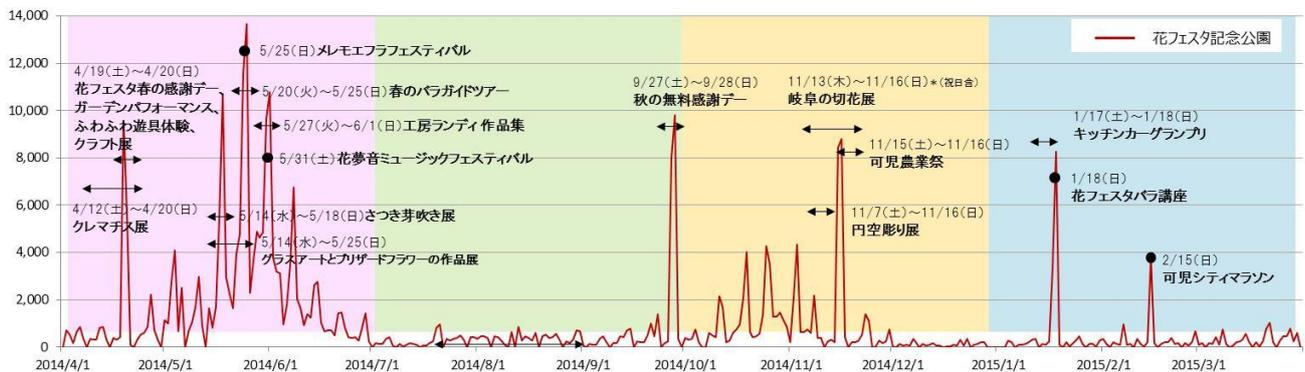
「花フェスタ無料感謝 DAY」を可児市、可児商工会議所、可児市観光協会、JA等団体の協力のもと開催。

【入園者数等の動向】

- 入園者数は、春のバラ鑑賞期の4月～6月に最も多く、次いで秋のバラ鑑賞期9月～11月となる一方で、夏期・冬期が少ない状況である。

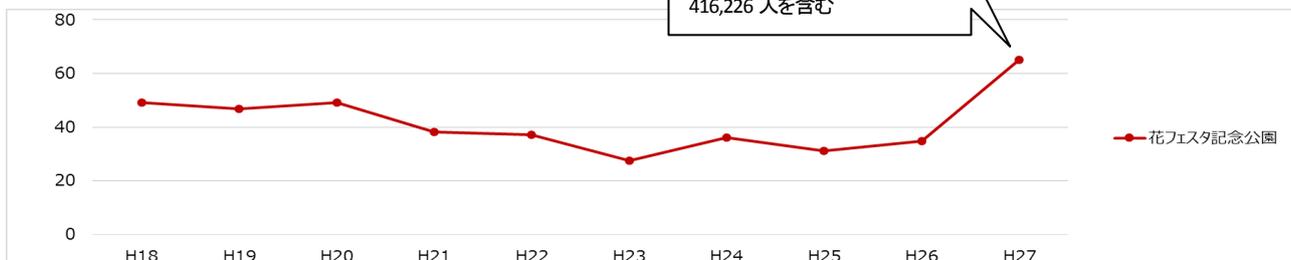
【日別入園者数推移】(平成26年度)

入園者数(人)



【年間入園者数の推移】(平成18～27年度)

入園者数(万人)



【公園の主なイベント・プログラム】(平成27年度)

- 春のバラまつり、秋のバラまつり、春の市民茶会、春のバラガイドツアー、写生コンテスト、阿波踊り、キャラクターショー、コスモスまつり、紅葉まつり、可児農業祭、桜ヶ丘幼稚園まつり、各種コンサート、花フェスタダンスフェスティバル、服部早苗植物画展、さつき芽吹き展、キッズサマーイベント、バラ雑貨作品展、トールペイント作品展、秋の盆栽展、天使の運動会、花フェスタ花火コンサート、園芸アカデミー作品展、もみじまつり、可児シティマラソン、学校・団体の発表会 等
- 花フェスタバラ講座、プリザーブドフラワー教室、ピザ焼き体験、絵本の時間、バラの育て方相談室、ガラスアート体験教室、手打ちそば 等

【アンケート結果】(平成26年度 春・秋のバラまつり平均)

【居住地】 岐阜県が43.1%、愛知県が46.2%

【年代】 50代以上が約70%を占める。

【性別】 女性が約70%を占める。

【利用形態】 夫婦(45.2%)、家族(27.0%)、知人友人(15.4%)、一人(5.8%)、
カップル(3.4%)

【来園頻度】 年に1回~数回(48.2%)、初めて(19.5%)、数年に1回(15.2%)、
月に1回~数回(10.3%)、週に1回以上(7.0%)

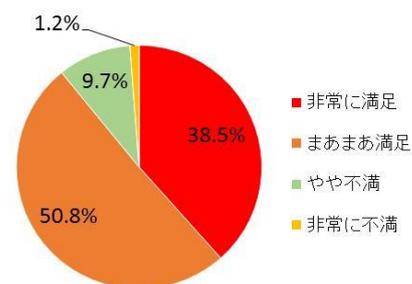
【来園動機】 花がきれい(44.4%)、イベントがある(15.0%)、景色がきれい(16.0%)、
広々している(8.1%)、友人に誘われて(4.3%)

【滞在時間】 1時間未満(3.6%)、1~2時間(33.0%)、
2~3時間(33.9%)、3~4時間(17.5%)、
4時間以上(12.2%)

【満足度】 非常に満足(38.5%)、
まあまあ満足(50.8%)、やや不満(9.7%)、
非常に不満(1.2%)

【飲食物販施設の味・値段・接客等】

非常に良い(5.7%)、良い(28.1%)、ふつう(63.0%)、
悪い(3.1%)、非常に悪い(0.2%)



満足度グラフ

<花フェスタ記念公園の強み、弱み、機会、脅威>

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・世界に誇るバラ園（品種数、株数）を有する。 ・国際的な評価（世界バラ会連合から「優秀ガーデン賞」を授与）を得ている。 ・「英国バラ協会友好庭園」や、「モロッコ・ロイヤルローズガーデン」、「アンネのバラ園」、環太平洋ばら友好協定等、国際交流の取組みが他公園と比較して多い。 ・高速道路 I C に近く、自家用車によるアクセスが良い。 ・園内には「茶室」を有し、海外からの来客にも好評である。 ・地元可児市において、公園が「誇り」となっており、「市の花」にバラも指定されているように、市のブランドに貢献している。 ・他県からの来園者は約 57% を占めており、広域的な誘致圏を有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バラの主な開花時期（春、秋）に依存した集客構造となっており、夏、冬の少ない集客数との差が他公園と比較して大きい。 ・バラの見せ方や情報発信がマンネリ化している。 ・多くの品種数のバラを有する一方で、植物園のような構成となっており、記念撮影に適したバラのボリューム感を味わえるエリアが少ない。 ・バラ以外の花の見どころが乏しい。 ・高い国際的な評価を受け一方、その価値がインバウンドに連動していない。 ・主要施設が分散しており、施設間の連携性に乏しい。 ・「花のタワー」の展望台は、眺望性を活かしきれていない。 ・屋内イベント会場となる「プリンセスホール雅」の設備が多目的利用に対応できていない。 ・東ゲート付近の賑わいが乏しい。 ・自家用車で来園が 90% を超えており、公共交通によるアクセスが弱い。 ・飲食の満足度において、普通以下が約 66% を占める。
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ・「清流の国ぎふ花き振興計画」における花き振興の拠点としての位置づけ。 ・近隣の施設である「杉原千畝記念館」に関する「杉原リスト」が、世界の記憶として申請中。 ・アメリカ・ポートランドにおいて、「バラ」がまちのブランドとなり、企業誘致に成功している事例の存在。 ・東海環状自動車道の全線開通による関西圏からのアクセス性の向上。 ・新東名高速道路の豊田東 JCT～浜松いなさ JCT 間の開通による静岡方面からのアクセス性の向上。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催に伴うインバウンドの拡大機会の到来。 ・リニア中央新幹線開業による交流人口増。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少（少子高齢化）の進行。 ・公園施設の老朽化の進行による陳腐化。 ・バラ株の老齢化。 ・高度なバラ管理技術を担う人材の継続的な確保。 ・類似施設との競合。

<養老公園>

【沿革】

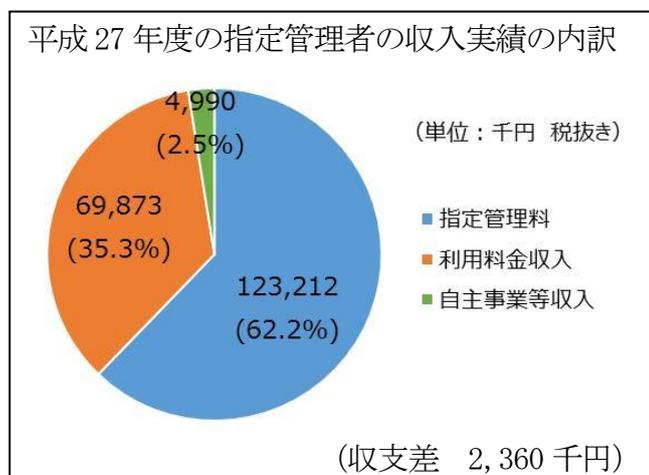
- 明治 13 年 10 月 17 日に開園。
- 昭和 49～58 年 岐阜県こどもの国、テニスコート等を整備。
- 昭和 60～平成 3 年 パークゴルフ場等を整備。
- 平成 7 年 10 月に、荒川修作氏とマドリン・ギンズ氏が設計した「養老天命反転地」を整備。
- 平成 10 年 4 月に「楽市楽座・養老」がオープン。

【施設特性】

- 面積 78.5ha
- 開園時間 有料施設のみ 9:00～17:00
有料施設以外 終日
- 駐車台数 1,220 台 (大型 23 台)

【指定管理者の現状】

- 平成 27 年度～平成 33 年度の 7 年間、指定管理者はイビデングリーンテック株。



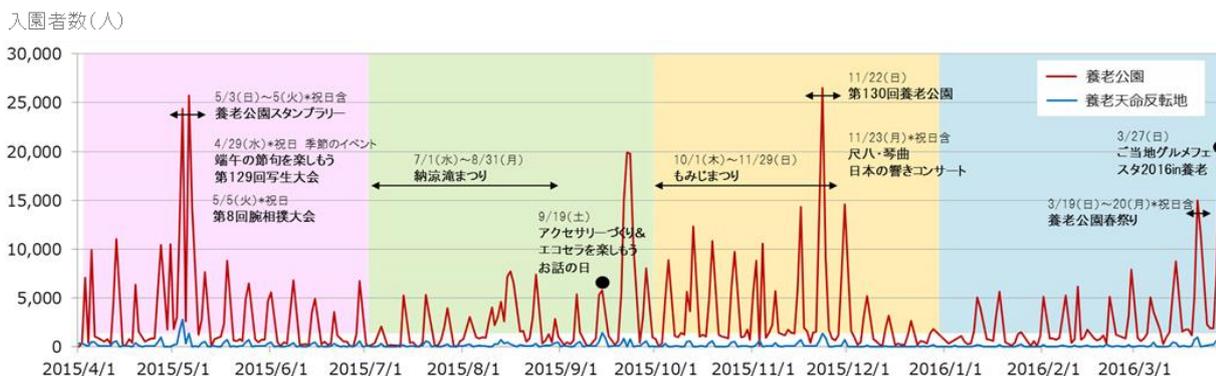
【地域連携】

- 養老町は、平成 25 年 3 月に策定した「新生養老まちづくり構想」において、養老公園エリアを観光・文化の拠点に位置づけた。

【入園者数等の動向】

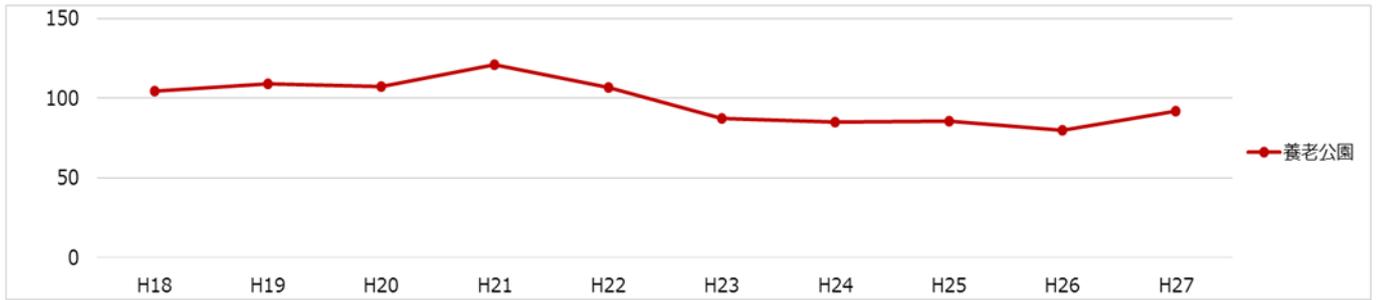
- 月平均日入園者数は、紅葉時期の 11 月が最も多く、次いで長期休暇がある 5 月が多い。また、冬の 12 月～2 月は利用者が少ない。

【日別入園者数推移】(平成 27 年度)



【年別入園者数推移】(平成 18～27 年度)

入園者数(万人)



【公園の主なイベント・プログラム】(平成 27 年度)

- ・ 養老公園写生大会(表彰式)、こいのぼりプロジェクト、養老公園スタンプラリー、季節のイベント、養老公園春祭り、養老天命反転地ツアーガイド、養老流しソーメン大会、養老鉄道おすすめハイキング(養老天命反転地)、大垣養老マルシェ、養老パークゴルフクラブ会長杯大会、日の出鑑賞会、ひょうたんワークショップ、ご当地グルメフェスタ 2016 in 養老 等
- ・ 「養老改元 1300 年祭」プレイイベント「親孝行ふるさとフェスタ」

【アンケート結果】(平成 26 年度 春・秋の平均)

【居住地】 岐阜県が 35.9%、愛知県が 34.1%

【年代】 19 歳～29 歳が最も多く約 23%、次いで 30 代、40 代がそれぞれ約 21%を占める

【性別】 男女比はほぼ半々である。

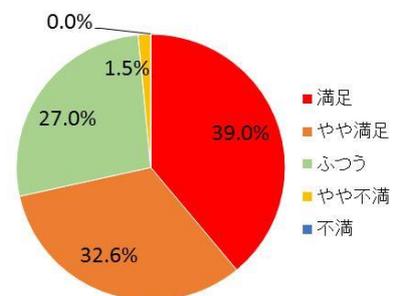
【利用形態】 家族(51.9%)、友人・知人(31.7%)、一人(7.1%)、団体(5.4%)

【来園頻度】 初めて(46.4%)、数年に 1 回(14.5%)、年に 1～数回(29.8%)、月 1～数回(6.4%)、週に 1 回以上(3.0%)

【来園動機】 家族団らん(23.1%)、散歩(17.0%)、自然観察・花見(12.5%)、スポーツ(11.0%)、ウォーキング・健康づくり(10.4%)

【滞在時間】 1 時間未満(0.8%)、1～2 時間(17.9%)、2～3 時間(40.3%)、3～5 時間(28.8%)、5 時間以上(5.9%)

【満足度】 満足(39.0%)、やや満足(32.6%)、ふつう(27.0%)、やや不満(1.5%)、不満(0.0%)



満足度グラフ

<養老公園の強み、弱み、機会、脅威>

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・開設して130年以上の歴史がある。 ・孝子伝説で有名な名瀑「養老の滝」があり、葛飾北斎も描いた歴史的価値を有する。 ・「養老の滝」が「日本の滝百選」に選定されており、養老山地から湧き出る水「菊水泉」は「日本の名水百選」に選定されている。 ・世界的に有名なアーティスト、荒川修作氏とマドリン・ギンズ氏が設計した芸術作品「養老天命反転地」を有している。 ・「こどもの国」ゾーンは、子ども向けの遊具やフィールドアスレチックが充実しており、家族連れでの来園が多い。 ・春のサクラや秋の紅葉は、東海地方の代表的な観光スポットとして定着している。 ・養老駅に近く、公共交通によるアクセスが比較的容易である。 ・養老鉄道で電車内に自転車を持ち込める「サイクルトレイン」が導入され、広域的な周遊観光のルートとして利用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進んでいる。 ・「養老の滝」までの主要園路（滝谷沿い）は、地形特性から、厳しい傾斜の園路が多く、ユニバーサルデザインに対応しておらず、休憩施設も少なく、利便性に欠ける。 ・公園自体の広さに比べて駐車台数が少なく、春・秋のピーク時には渋滞が発生する。
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の歴史的な地域資源としての、関ヶ原古戦場周辺等との連携。 ・平成29年に養老公園を主な会場とした「養老改元1300年祭」の開催。 ・東海環状自動車道の全線開通、および養老インターチェンジの供用開始（平成29年予定）によるアクセス性の向上。 ・養老鉄道沿線の広域的な活性化への取組みとの連携。 ・テレビ番組のロケーション撮影の場としての活用による知名度の向上。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催に伴うインバウンドの拡大機会の到来。 ・リニア中央新幹線開業による交流人口増。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少（少子高齢化）の進行。 ・公園施設の老朽化の進行による陳腐化。 ・類似施設との競合。 ・レクリエーションに関するニーズの多様化。

<世界淡水魚園>

【沿革】

- 平成 11 年 7 月に「河川環境楽園」の中核施設として開園。
- 平成 16 年 7 月に「世界淡水魚園水族館『アクア・トトぎふ』」が開館。
- 「河川環境楽園」は国営木曽三川公園、県営公園「世界淡水魚園」、自然共生研究センター、岐阜県水産研究所、川島パーキングエリア、ハイウェイオアシスなどで構成された環境共生型テーマパーク（全体は約 50ha）。

【施設特性】

- 面積 約 3.4ha
- 開園時間 9:30～ 22:00 （4 月下旬～10 月下旬 9:30～ 22:30）
（1 月上旬～ 3 月下旬 9:30～ 19:00）

世界淡水魚園水族館

平日 9:30～17:00、土日祝 9:30～18:00

- 駐車台数 2,198 台
うち高速道路エリア 428 台

【指定管理者の現状】

- 平成 27 年度～平成 33 年度の 7 年間、世界淡水魚園水族館を除く区域の指定管理者は(株)オアシスパーク。
- 世界淡水魚園水族館の指定管理者は整備当初より (株) 江ノ島マリンコーポレーション（平成 16 年度～平成 46 年度）。
- 指定管理者は利用料金収入等にて管理運営し、県から指定管理料は支出してない。

【地域連携】

国営木曽三川公園、ハイウェイオアシス、川島パーキングエリア及び自然共生研究センター等と一体化しており、周辺施設・地域との連携により多くの利用がある。

国や関係自治体と「河川環境楽園イベント実行委員会」を組織し、季節に応じた「楽園祭」を実施している。

平成 27 年度の指定管理者の収入実績の内訳
(株オアシスパーク)



(収支差 4,431 千円)

平成 27 年度の指定管理者の収入実績の内訳
(株江ノ島マリンコーポレーション)

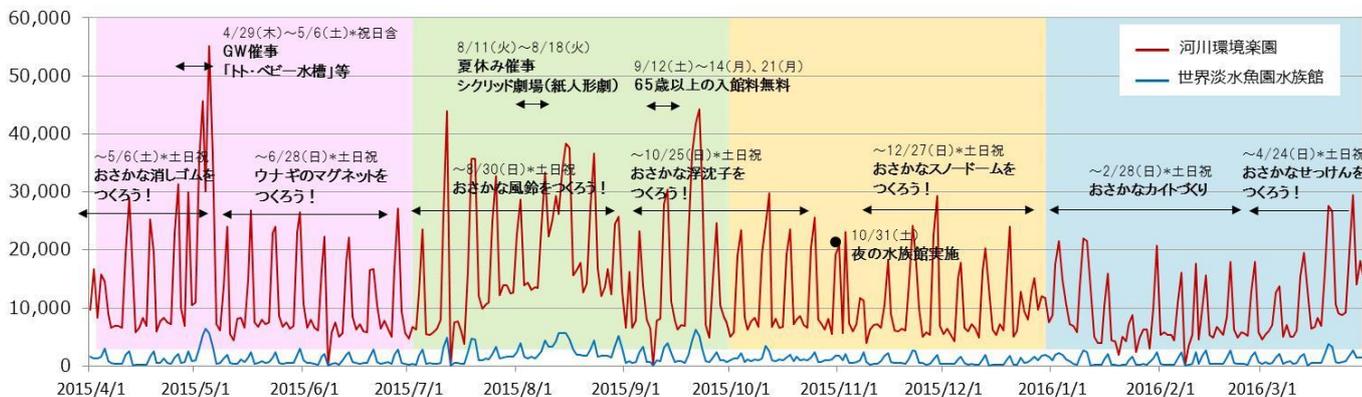


(収支差 35,938 千円)

【入園者数等の動向】

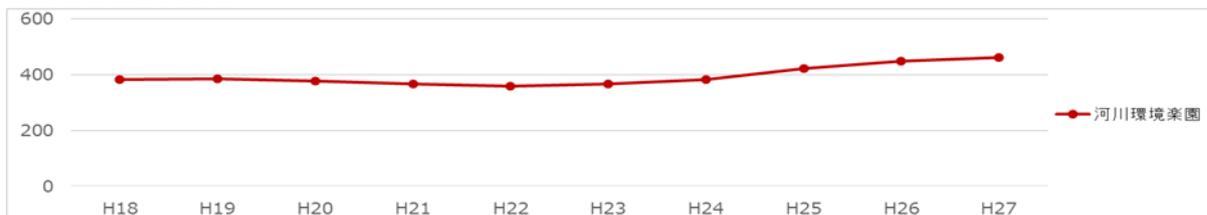
- 日平均利用者数が最も多いのは8月であるが、年間を通じて日平均で1万人程度の利用者がいる。

【日別入園者数推移】（平成27年度）

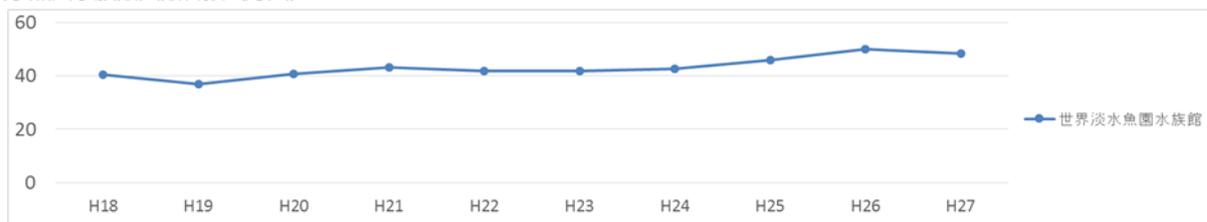


【年別入園（入館）者数推移】（平成18～27年度）

河川環境楽園入園者数（万人）



世界淡水魚園水族館入館者数（万人）



【公園の主なイベント・プログラム】（平成27年度）

- （世界淡水魚園）イベント 春・夏・秋・冬の楽園祭 等
- （世界淡水魚園水族館）
 - イベント 企画展「ニホンウナギ」、「アフリカ進化の湖」、「世界のハイギョ」
65歳以上入館料無料企画 等
 - プログラム ものづくりワークショップ、ゴールデンウィーク・夏休み催事企画、
企画展に合わせた 講演会、シクリッド劇場（紙人形劇）、お泊りナイト
ツアー

【アンケート結果（世界淡水魚園）】（平成 26 年度）

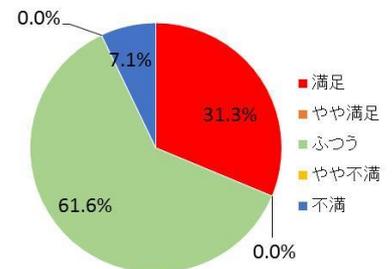
- 【居住地】 岐阜県が 34.8%、愛知県が 52.0%
- 【年代】 30 代が最も多く約 28%を、次いで小学生以下が約 17%を占める。
- 【性別】 女性が約 61%を占める。
- 【利用形態】 家族(68.6%)、夫婦(16.7%)、友人・知人(7.0%)、一人(3.1%)、カップル(2.6%)
- 【来園頻度】 初めて(17.9%)、数年に 1 回(25.5%)、年に 1~数回(30.3%)、月に 1~数回(19.7%)、週に 1 回以上(6.6%)
- 【来園動機】 施設が充実(38.9%)、大型遊具や水遊び場(22.8%)、イベント・催し物参加(22.7%)、健康づくり・植物の鑑賞(9.4%)、その他(6.2%)
- 【滞在時間】 1 時間未満(7.6%)、1~2 時間(14.8%)、2~3 時間(25.0%)、3~4 時間(22.6%)、4~5 時間(13.7%)、5 時間以上(16.5%)
- 【満足度】 満足(69.0%)、やや満足(30.8%)、ふつう(0.0%)、やや不満(0.2%)、不満(0.0%)



世界淡水魚園 満足度グラフ

【アンケート結果（世界淡水魚園水族館）】（平成 26 年度）

- 【居住地】 岐阜県が 26.8%、愛知県が 45.4%
- 【年代】 小学生以下が最も多く、約 36%、次いで 30 代が約 26. %を占める。
- 【性別】 女性が約 56%を占める。
- 【利用形態】 家族(80.8%)、友人・知人(7.8%)、カップル(4.7%)、夫婦(4.0%)
- 【来館頻度】 初めて(45.8%)、数年に 1 回(54.2%)
- 【来館動機】 淡水魚が見たかった(17.6%)、水族館が好き(16.3%)、特別展を見たかった(13.2%)、涼しそうだから(8.2%)、その他(44.7%)
- 【満足度】 満足(31.3%)、やや満足(0.0%)、ふつう(61.6%)、やや不満(0.0%)、不満(7.1%)



世界淡水魚園水族館 満足度グラフ

<世界淡水魚園の強み、弱み、機会、脅威>

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する国営木曾三川公園に加え、自然共生研究センター、水辺共生体験館、岐阜県水産研究所、川島パーキングエリア等の一帯が、「河川環境楽園」として有機的に機能している。 ・ハイウェイオアシスとして整備され、川島パーキングエリアからも直接入園することが可能であり、自家用車等によるアクセスが非常に良い。 ・各施設が「水」をテーマとした統一したコンセプトで運営されている。 ・淡水魚の水族館としては世界最大級の水族館を有する。 ・愛知県との県境に立地することから、他県からの来園者が多く、本県をPRする場として適している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県営公園としては約3.4haと狭小である。 ・公共交通によるアクセスが弱い。 ・当初整備時の役割を終え、有効活用されていない施設がある。 ・「河川環境楽園」の敷地内は、国営・県営・民間と管理主体が異なっており、案内サインが統一されていない。
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年12月の「清流長良川の鮎」の「世界農業遺産」への登録や、平成28年7月の岐阜県水産研究所内への「内水面漁業研修センター」の開設など、「清流の国ぎふ」を進めていくための中核エリアとしての役割が強化できる機会の到来。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催に伴うインバウンドの拡大機会の到来。 ・リニア中央新幹線開業による交流人口増。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少（少子高齢化）の進行。 ・公園施設の老朽化の進行による陳腐化。 ・類似施設との競合。 ・東海環状自動車道全線開通に伴う、関西圏から高山方面へ向かう観光客のシフトによる東海北陸自動車道の交通量の減少。

<平成記念公園>

【沿革】

- 平成 15 年 4 月 16 日に開園。
- 昭和 30 年代前半までの里山の景観を再現する「日本昭和村」をコンセプトとして整備。
- 園内に約 76ha の未供用地がある。

【施設特性】

- 面積 83.9ha
- 開園時間 有料施設のみ 9:00~18:00
 銭湯「里山の湯」は、10:00~22:00
- 駐車台数 約 3,000 台

【指定管理者の現状】

- 平成 25 年度～平成 29 年度の 5 年間、指定管理者は「昭和村 MC グループ」（構成員：（株）岐阜グランドホテル、（株）名鉄インプレス、（株）名鉄レストラン、名鉄環境造園（株）、中央コンサルタンツ（株））。
- 指定管理者は利用料金収入等にて管理運営し、県から指定管理料は支出してない。

平成 27 年度の指定管理者の収入実績の内訳



(単位：千円 税抜き)

(収支差 3,766 千円)

【地域連携】

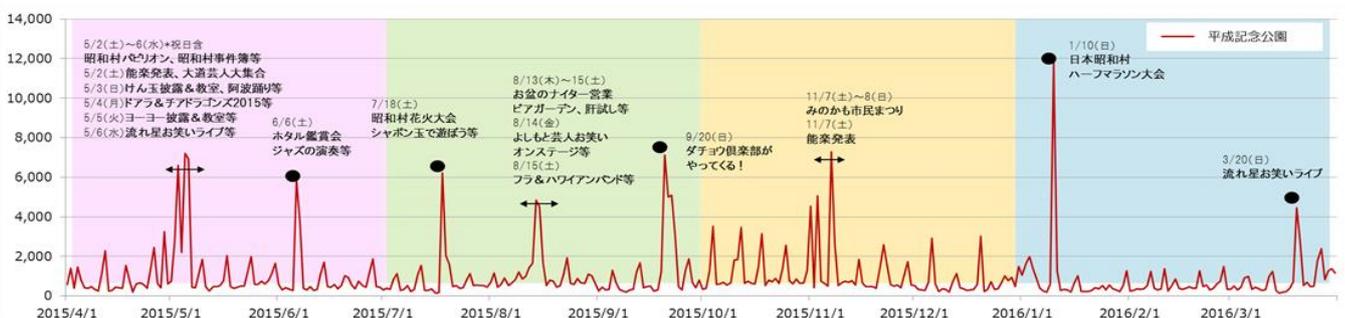
- 美濃加茂市は「里山千年基本計画」（平成 27 年 8 月策定）において、未利用地を含む区域を里山活動の場として位置づけている。
- 売店や道の駅で地元の特産物を取扱うなど、地域の特産物の PR の場となる。
- 美濃加茂市や商工会議所と連携して「みのかも市民まつり」やグルメイベント「ちいき絆ねっと食の陣」を開催、「みのかもハーフマラソン」は 6,000 人規模の大会で平成記念公園が発着地となっている。

【入園者数等の動向】

- 入園者数は季節性的変動は少なく、イベントの開催日に、入園者が多くなっている。

【日別入園者数推移】（平成 27 年度）

入園者数(人)



【年別入園者数推移】（平成 18～27 年度）

入園者数(万人)



【公園の主なイベント・プログラム】（平成 27 年度）

- 春のわくわく昭和村、昭和村パビリオン、昭和村クイズラリー、ホテル鑑賞会、ヒツジの毛刈り、昭和村花火大会、昭和村妖怪の陣、肝試し、昭和村の秋まつり、稲わらアート、みのかも市民まつり、みのかもハーフマラソン大会、昭和村の花まつり、お笑いライブ、アルパカのお散歩 等
- 田植え、季節の野菜の収穫、寄せ植え、桜の植樹、パン・バター等、機織り、染め色、万華鏡、陶芸教室、ソバうち体験、飯ごう炊さん、風車、お手玉、オルゴール教室、藤クラフト教室、羊毛フェルト講座、アロマクラフト 等

【アンケート結果】（平成 26 年度）

【居住地】 岐阜県が 40.0%、愛知県が 50.0%

【年代】 30代、40代が最も多く、それぞれ約 23%を占める。

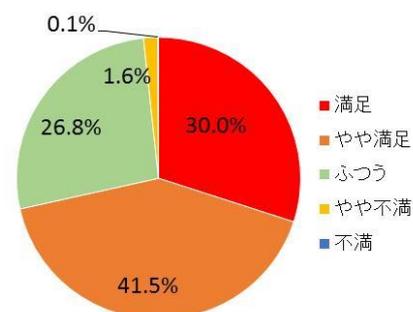
【性別】 女性が約 59%を占める。

【利用形態】 家族 (69.0%)、カップル (11.9%)、友人・知人 (7.3%)、団体 (6.1%)、一人 (3.2%)

【来園頻度】 初めて (53.4%)、数年に 1 回 (40.4%)、月に 1 回～数回 (6.2%)

【滞在時間】 1 時間未満 (4.0%)、1～2 時間 (21.6%)、2～3 時間 (37.0%)、3～4 時間 (24.1%)、4～5 時間以上 (10.5%)

【満足度】 満足 (30.0%)、やや満足 (41.5%)、ふつう (26.8%)、やや不満 (1.6%)、不満 (0.1%)



満足度グラフ

<平成記念公園の強み、弱み、機会、脅威>

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・ハイウェイオアシスとして整備され、美濃加茂サービスエリアからも直接入園することが可能であり、自家用車等によるアクセスが非常に良い。 ・駐車台数は約 3,000 台と、基本戦略の対象となる 4 公園の中で最大。 ・里山を活かした公園整備が行われている。 ・遊具や子ども向けのプログラムが充実しており、家族連れでの来園が多い。 ・園内には約 40 棟の建物があり、様々な体験プログラムが提供されている。 ・入園ゲートの外に、銭湯や青空市場という特徴的な施設を有している。 ・園内には牧場もあり、動物の触れあい体験ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・入園料が有料であり、さらに園内の体験施設がほぼ有料となっており、特に家族連れの利用者にとって割高感が強い。 ・再訪したいと思わせる魅力が乏しいため、リピーター率が低い。 ・園内にある能楽堂、茶室等の施設を活用しきれていない。 ・入場口から登坂路となるため、全体を見渡せず、回遊性を持つ動線となりにくい構造である。 ・公園区域に隣接した北部に、未供用地(約 76ha)がある。 ・公共交通によるアクセスが弱い。 ・高速道路からの進入路が分かりにくい。
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ・東海環状自動車道の全線開通による関西圏からのアクセス性の向上。 ・未供用地における間伐や下草刈り等の里山整備活動の展開可能性。 ・新東名高速道路の豊田東 JCT～浜松いなさ JCT 間の開通による静岡方面からのアクセス性の向上。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催に伴うインバウンドの拡大機会の到来。 ・リニア中央新幹線開業による交流人口増。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少（少子高齢化）の進行。 ・公園施設の老朽化の進行による陳腐化。 ・類似施設との競合。 ・「昭和」というコンセプトに郷愁を感じる世代の減少。

2. 各公園の基本コンセプトと現状等との主な関係

各公園の強み、弱み、機会、脅威のうち、基本コンセプトに反映した要因について、下線を付した。

花フェスタ記念公園	「世界に誇るバラ園を中心に花による感動をつたえる」
<ul style="list-style-type: none"> ・目を奪われるようなバラによる修景 ・国際園芸アカデミーとの連携による人材育成 ・花き振興の拠点として花のある暮らしを提案するなど花の魅力発信 ・公園の魅力を端的に表す公園名称への変更による国内外への発信 	
<p>【重点的な展開】 日本全国、世界をターゲットとした展開</p>	

<花フェスタ記念公園の強み、弱み、機会、脅威> (再掲、以下同じ。)

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・<u>世界に誇るバラ園（品種数、株数）を有する。</u> ・<u>国際的な評価（世界バラ会連合から「優秀ガーデン賞」を授与）を得ている。</u> ・「英国バラ協会友好庭園」や、「モロッコ・ロイヤルローズガーデン」、「アンネのバラ園」、環太平洋ばら友好協定等、<u>国際交流の取組みが他公園と比較して多い。</u> ・高速道路 I C に近く、自家用車によるアクセスが良い。 ・園内には「茶室」を有し、海外からの来客にも好評である。 ・地元可児市において、公園が「誇り」となっており、「市の花」にバラも指定されているように、市のブランドに貢献している。 ・他県からの来園者は約 57% を占めており、広域的な誘致圏を有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・バラの主な開花時期(春、秋)に依存した集客構造となっており、夏、冬の少ない集客数との差が他公園と比較して大きい。 ・<u>バラの見せ方や情報発信がマンネリ化している。</u> ・<u>多くの品種数のバラを有する一方で、植物園のような構成となっており、記念撮影に適したバラのボリューム感を味わえるエリアが少ない。</u> ・バラ以外の花の見どころが乏しい。 ・<u>高い国際的評価を受ける一方、その価値がインバウンドに連動していない。</u> ・主要施設が分散しており、施設間の連携性に乏しい。 ・「花のタワー」の展望台は、眺望性を活かさきれていない。 ・屋内イベント会場となる「プリンセスホール雅」の設備が多目的利用に対応できていない。 ・東ゲート付近の賑わいが乏しい。 ・自家用車で来園者が 90% を超えており、公共交通によるアクセスが弱い。 ・飲食の満足度において、普通以下が約 66% を占める。
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ・「清流の国ぎふ花き振興計画」における花き振興の<u>拠点としての位置づけ。</u> ・近隣の施設である「杉原千畝記念館」に関する「杉原リスト」が、世界の記憶として申請中。 ・アメリカ・ポートランドにおいて、「バラ」がまちのブランドとなり、企業誘致に成功している事例の存在。 ・東海環状自動車道の全線開通による関西圏からのアクセス性の向上。 ・新東名高速道路の豊田東 JCT～浜松いなさ JCT 間の開通による静岡方面からのアクセス性の向上。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催に伴うインバウンドの拡大機会の到来。 ・リニア中央新幹線開業による交流人口増。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少（少子高齢化）の進行。 ・公園施設の老朽化の進行による陳腐化。 ・バラ株の老齢化。 ・<u>高度なバラ管理技術を担う人材の継続的な確保。</u> ・類似施設との競合。

養老公園

「健康長寿の願いと命への感謝が込められた自然と歴史をたどる」

- ・清流の原点としての「養老の滝」へのアクセス向上
- ・老若男女を問わない健康づくりの推進と子どもの健やかな成長を促す環境の充実
- ・関ヶ原古戦場等の歴史遺産との連携による集客
- ・情報科学芸術大学院大学（IAMAS）、岐阜県美術館との連携や養老天命反転地に触発されたアートの展開

【重点的な展開】シニア世代、新たにアーティストや世界をターゲットとした展開

<養老公園の強み、弱み、機会、脅威>

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・開設して130年以上の歴史がある。 ・孝子伝説で有名な名瀑「養老の滝」があり、葛飾北斎も描いた歴史的価値を有する。 ・「養老の滝」が「日本の滝百選」に選定されており、養老山地から湧き出る水「菊水泉」は「日本の名水百選」に選定されている。 ・世界的に有名なアーティスト、荒川修作氏とマドリン・ギンズ氏が設計した芸術作品「養老天命反転地」を有している。 ・「こどもの国」ゾーンは、子ども向けの遊具やフィールドアスレチックが充実しており、家族連れでの来園が多い。 ・春のサクラや秋の紅葉は、東海地方の代表的な観光スポットとして定着している。 ・養老駅に近く、公共交通によるアクセスが比較的容易である。 ・養老鉄道で電車内に自転車を持ち込める「サイクルトレイン」が導入され、広域的な周遊観光のルートとして利用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進んでいる。 ・「養老の滝」までの主要園路（滝谷沿い）は、地形特性から、厳しい傾斜の園路が多く、ユニバーサルデザインに対応しておらず、休憩施設も少なく、利便性に欠ける。 ・公園自体の広さに比べて駐車台数が少なく、春・秋のピーク時には渋滞が発生する。
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の歴史的な地域資源としての、関ヶ原古戦場周辺等との連携。 ・平成29年に養老公園を主な会場とした「養老改元1300年祭」の開催。 ・東海環状自動車道の全線開通、および養老インターチェンジの供用開始（平成29年予定）によるアクセス性の向上。 ・養老鉄道沿線の広域的な活性化への取組みとの連携。 ・テレビ番組のロケーション撮影の場としての活用による知名度の向上。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催に伴うインバウンドの拡大機会の到来。 ・リニア中央新幹線開業による交流人口増。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少（少子高齢化）の進行。 ・公園施設の老朽化の進行による陳腐化。 ・類似施設との競合。 ・レクリエーションに関するニーズの多様化。

世界淡水魚園

「川が育む豊かな自然と文化にふれ、生き物に親しむ」

- ・国営木曾三川公園や各研究機関と一体的に遊びと学びをつなぐ
- ・里川の魅力と価値を発信し、川がもたらす恵みを後世に伝承
- ・「清流の国ぎふ」の南のゲートウェイとして情報発信

【重点的な展開】東アジアなどとの国際交流や国際貢献

<世界淡水魚園の強み、弱み、機会、脅威>

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・隣接する国営木曾三川公園に加え、自然共生研究センター、水辺共生体験館、岐阜県水産研究所、川島パーキングエリア等の一帯が、「河川環境楽園」として有機的に機能している。 ・ハイウェイオアシスとして整備され、川島パーキングエリアからも直接入園することが可能であり、自家用車等によるアクセスが非常に良い。 ・各施設が「水」をテーマとした統一したコンセプトで運営されている。 ・淡水魚の水族館としては世界最大級の水族館を有する。 ・愛知県との県境に立地することから、他県からの来園者が多く、本県をPRする場として適している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県営公園としては約3.4haと狭小である。 ・公共交通によるアクセスが弱い。 ・当初整備時の役割を終え、有効活用されていない施設がある。 ・「河川環境楽園」の敷地内は、国営・県営・民間と管理主体が異なっており、案内サインが統一されていない。
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ・平成27年12月の「清流長良川の鮎」の「世界農業遺産」への登録や、平成28年7月の岐阜県水産研究所内への「内水面漁業研修センター」の開設など、「清流の国ぎふ」を進めていくための中核エリアとしての役割が強化できる機会の到来。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催に伴うインバウンドの拡大機会の到来。 ・リニア中央新幹線開業による交流人口増。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少（少子高齢化）の進行。 ・公園施設の老朽化の進行による陳腐化。 ・類似施設との競合。 ・東海環状自動車道全線開通に伴う、関西圏から高山方面へ向かう観光客のシフトによる東海北陸自動車道の交通量の減少。

平成記念公園

「人と自然が共生する里山の暮らしと文化に親しむ」

- ・里山環境を活かした外遊びプログラムの充実
- ・里山文化が育んできた「匠の技」の体験
- ・森林文化アカデミーとの連携による実践的な環境教育の展開
- ・公園の魅力を端的に表す公園名称への変更と利用しやすい料金体系の検討

【重点的な展開】利用者のニーズに応じた施設配置や管理運営方法などの全面的な見直し

<平成記念公園の強み、弱み、機会、脅威>

強み	弱み
<ul style="list-style-type: none"> ・ハイウェイオアシスとして整備され、美濃加茂サービスエリアからも直接入園することが可能であり、自家用車等によるアクセスが非常に良い。 ・駐車台数は約 3,000 台と、基本戦略の対象となる 4 公園の中で最大。 ・<u>里山を活かした公園整備が行われている。</u> ・<u>遊具や子ども向けのプログラムが充実しており、家族連れでの来園が多い。</u> ・<u>園内には約 40 棟の建物があり、様々な体験プログラムが提供されている。</u> ・入園ゲートの外に、銭湯や青空市場という特徴的な施設を有している。 ・園内には牧場もあり、動物の触れあい体験ができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>入園料が有料であり、さらに園内の体験施設がほぼ有料となっており、特に家族連れの利用者にとって割高感が強い。</u> ・<u>再訪したいと思わせる魅力が乏しいため、リピーター率が低い。</u> ・園内にある能楽堂、茶室等の施設を活用しきれていない。 ・入場口から登坂路となるため、全体を見渡せず、回遊性を持つ動線となりにくい構造である。 ・公園区域に隣接した北部に、未供用地(約 76ha)がある。 ・公共交通によるアクセスが弱い。 ・高速道路からの進入路が分かりにくい。
機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ・東海環状自動車道の全線開通による関西圏からのアクセス性の向上。 ・<u>未供用地における間伐や下草刈り等の里山整備活動の展開可能性。</u> ・新東名高速道路の豊田東 JCT～浜松いなさ JCT 間の開通による静岡方面からのアクセス性の向上。 ・東京オリンピック・パラリンピック開催に伴うインバウンドの拡大機会の到来。 ・リニア中央新幹線開業による交流人口増。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少（少子高齢化）の進行。 ・公園施設の老朽化の進行による陳腐化。 ・類似施設との競合。 ・<u>「昭和」というコンセプトに郷愁を感じる世代の減少。</u>

3. 公園とまちづくり ~アメリカ・ポートランドの事例~

「世界で最も住みやすい都市 第1位」

2012年 イギリス「ザ・ガーディアン紙」

そのほかにも...

- ・最も住んでみたい都市
- ・歩いて暮らせるように設計された都市
- ・自転車通勤に適した都市
- ・全米で注目の美食の都市
- ・人とペットに優しい都市
- ・環境に優しい都市
- ・自然とともに経済成長をする都市
- ・持続可能な(サステナブル)都市
- etc.

ポートランドの概要

【場所】

アメリカ合衆国オレゴン州北西部マルトノマ郡にある都市で、同州最大の都市かつ同郡の郡庁所在地である。



【経済】

- ① 全米でも屈指の港湾都市(世界第2位小麦取引港)
- ② 金属産業、木材産業、IT産業、スポーツアパレル集積地
インテル社、IBM社、ゼロックス社
ナイキ、アディダス、コロンビア・スポーツウエア
- ③ ワイナリー(ピノ・ノワール種)、地ビール醸造所など多数

⇒2008年以来、全米で最も国内総生産(GDP)の成長率が高い都市はポートランド市で、22.8%の成長率を記録。ニューヨーク市は、わずか6.3%

【沿革・風土】

- ポートランド市は、独自の価値観を持って、住民自らがコミュニティを作ってきたという土壌と歴史がある街。
- 1960年代にヒッピーの人たちが集まってコミュニティを作っていた場所であるため、リベラルで自治の意識が強く、文化に対する感度も高い人たちが集まっていたのが発祥。
- 独立精神が旺盛で、クリエイティブな人たちが集まるため、独自の文化やライフスタイルが現在まで育ってきたという歴史がある。
- 大手の小売チェーンのようなものも排斥して、個人商店やオーナー・レストランのようなもので街をつくっていく。
- クラフトマンシップを大切に、地産池消、サステナビリティ(持続可能性)といった意識も高い。

都市計画制度

○広域地域政府(Metro)

1978年有権者の承認を得て作られた米国で唯一直接選挙によって選ばれる地域政府で、ポートランド市を含むオレゴン州3郡、25都市で構成され、交通機関の発展計画や土地管理戦略を地方政府と連携して行う。1979年には、無秩序な都市拡大を防ぎ、自然や農地を守る目的で、「都市成長境界線」(UGB)が設定され、ポートランドを含む25の自治体が境界線を引き、都市開発をする範囲を境界線内に制限された。(UGBは5年ごとに見直し)

市民参加システム

○ネイバーフット・アソシエーション (Neighborhood Association)

1930年代から活動する近隣組合で、ポートランド市がその存在を公式に認めたのは1970年代。現在、95団体が市に登録し、90団体が7つの連合を形成。すべてが公式の市民参加団体として認められている。住民自らの自発的な活動であり、その運営の中心となる役員は選挙で選ばれるボランティアで、報酬はない。

自然環境への配慮の取組み

- コンパクトシティ化(20分の街)
- ゴみの減量・リサイクル率上昇への支援
- 環境対応型設計、建築
- 公共交通網の整備
- 自然地域の保護

「バラの街」としてのポートランド

【公式愛称】

温暖な気候によりバラの栽培に非常によく適しているため、市内には国際バラ試験農園を筆頭として多くのバラ園が散在し、ポートランドは100年以上に渡り「バラの街」(The City of Roses)の異名で知られ、最も一般的な愛称ともなっており、2003年には市の公式愛称に採択された。

【イベント】

1907年から100年以上続く歴史を誇るバラの祭典「ポートランド・ローズ・フェスティバル」が開催される。花で飾られた山車が繰り出すパレード、ドラゴン・ボートレース、花火大会、カーレース、スキーレース、コンサートなどで町中が盛り上がる。バラの品評会、ローズクイーン・コンテストなどイベント期間中は、世界中から観光客が訪れる。

【人口・面積】

人口:約58万人(2010年国勢調査)
面積:376.5 km²

⇒米大手運送会社ユニテッド・バン・ラインが年初に発表する、全米の州とワシントンDCを対象にした人口動態調査で、ポートランドの所在するオレゴンは2013年、2014年と連続で「トップ移住地」に輝いた。

<国際バラ試験庭園>

(International Rose Test Garden)

全米で最古の公立バラ園(1917年設立)。「フシントン公園」内にあり、同公園には他に、全米最多の2,000種近くの樹木や植物が植えられたホワイト樹木園や日本庭園、オレゴン動物園、世界森林センター、子ども博物館等も併設。



- <DATA>
- ・敷地面積:約1.8ha
 - ・品種数:約650種
 - ・株数:約10,000株
 - ・営業時間:7:30-21:00
 - ・入場無料
 - ・ボランティアツアー有
 - ・ペット入園可

ポートランド市に学ぶ都市戦略

- 市民主体の計画的なまちづくりによって、都市生活と農村生活が隣接し、容易に行き来できる自然環境に配慮した都市が生まれる。
- 自然に囲まれた暮らしにより、ストレス・フリーで多様性に寛容な暮らし方となり、犯罪も減少、多様な価値観を発信し合えるコミュニティが生まれる。
- 都市環境文化の魅力が向上し、移住者が増える。
- 創造性のある人が集まることで新たな付加価値が生み出され、経済的に発展する。

4. 岐阜県都市公園活性化懇談会

(1) 委員名簿

氏 名	役 職
浅野 健司	各務原市長
上田 善弘	岐阜県立国際園芸アカデミー学長
碓井 洋	岐阜新聞社代表取締役社長
大橋 孝	養老町長
岡山 金平	岐阜県商工会連合会会長
加藤 孝義	岐阜県園芸特産振興会花き部会会長
菊本 舞	岐阜経済大学経済学部准教授
岸野 吉晃	岐阜県観光連盟会長
小島 紀夫	プロデューサー
竹花 孝則	中日新聞社岐阜支社長
富田 成輝	可児市長
棚野 良明	国土交通省大臣官房審議官
藤井 浩人	美濃加茂市長
舟引 敏明	宮城大学事業構想学部教授
古田 菜穂子	岐阜県観光国際戦略顧問
村瀬 幸雄	岐阜県商工会議所連合会会長
山本 博子	特定非営利活動法人ママズカフェ理事長
若松 浩文	株式会社ランド代表取締役
涌井 史郎	岐阜県立森林文化アカデミー学長

(50音順・敬称略)

(2) 開催実績

- 第1回 平成28年1月13日(水)
 - ・県営都市公園の今後の方向性について
- 第2回 平成28年4月21日(木)
 - ・「岐阜県都市公園活性化基本戦略(骨子案)」について
- 第3回 平成28年7月 1日(金)
 - ・「岐阜県都市公園活性化基本戦略(案)」について
- 第4回 平成28年7月22日(金)
 - ・「岐阜県都市公園活性化基本戦略(案)」について
- 第5回 平成28年9月27日(金)
 - ・「岐阜県都市公園活性化基本戦略(案)」について